

平成25年度

教育委員会の事務の管理及び執行状況の点検及び評価報告書

伊那市教育委員会

## 教育委員会の事務の管理及び執行状況の点検及び評価について

- 伊那市教育委員会の事務の管理及び執行状況の点検及び評価（以下「点検・評価」という。）は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第27条の規定に基づき実施するものです。

(参 考)

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（関係条文抜粋）

第27条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行ない、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行なうに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

- 点検・評価は、平成24年度伊那市教育委員会重点施策の達成状況を対象とします。
- 上記重点施策に関連する事務事業は、2～3ページの一覧表のとおりです。
- 自己評価については、概ね下記の基準によります。

評価	内 容
a	優れた取組が多く、十分成果が上がっている
b	優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている
c	一定の成果は上がっているが課題もあり、改善の必要がある
d	成果が十分上がっておらず、改善の余地が多く、抜本的な見直しが必要である

- 「教育委員会評価委員」による点検・評価についての意見は、最終ページに記載しています。

平成24年度伊那市教育委員会重点施策に関連する事務事業一覧

No.	重点施策	事務事業名	評価	備考
第1節 学校教育の充実				
1-1: 個性や豊かな人間性を育む学校教育の推進				
1	学校教育の充実	総合的な学習	a	学校教育課
2		学力向上	b	学校教育課
3		幼保小中の連携	b	学校教育課
4		読書活動の推進	b	学校教育課
5		特別支援教育	b	学校教育課
6		外国籍児童生徒の支援	b	学校教育課
7		給食運営	b	学校教育課
8	教育環境の整備	学校施設の建設	a	学校教育課
9	促進	学校備品整備・情報教育	b	学校教育課
1-2: 高校教育との連携				
10	高等学校への支援	高等学校振興	b	学校教育課
11		私立高等学校振興	b	学校教育課
1-3: 心の教育及び支援体制の充実				
12	心の教育と支援	中間教室	b	学校教育課
13		子育て教育支援相談、家庭児童相談	a	学校教育課
14		不登校児童生徒支援ネットワーク	b	学校教育課
15		子どもと親の相談員配置	b	学校教育課
16		スクールカウンセラー配置	b	学校教育課
第2節 生涯学習・芸術文化の振興				
2-1: 生涯学習の振興				
17	生涯学習・社会教育の推進	市民大学	b	生涯学習課
18		桜大学	a	高遠長谷教育振興課
19-1		長谷生涯学習講演会	a	高遠長谷教育振興課
19-2		親孝行の讃歌事業	b	高遠長谷教育振興課
20	公民館活動の推進	集会施設建設等補助	b	生涯学習課
21		公民館建設(施設管理)	b	生涯学習課
22		公民館共同事業	a	生涯学習課
23		公民館事業	b	生涯学習課
24	図書館の充実	蔵書管理	b	生涯学習課
25		図書館イベント	b	生涯学習課
26		図書館分館	b	生涯学習課
27	生涯学習センターの充実	生涯学習センター	b	生涯学習課
28	人権同和教育の推進	社会人権同和教育	b	生涯学習課
29		学校人権同和教育	b	学校教育課

2-2: 青少年健全育成と家庭教育の充実				
30	青少年の健全育成	学童クラブ	b	生涯学習課
31		子ども週末活動の支援	b	生涯学習課
32		少年補導委員会・少年補導センター	c	生涯学習課
33		子ども会・育成会	b	生涯学習課
34		成人式	c	生涯学習課
2-3: 文化の振興				
35-1	文化事業などの充実	伊澤修二記念音楽祭	a	生涯学習課
35-2		い〜な音楽祭	a	生涯学習課
36		市民音楽祭	a	生涯学習課
37		信州伊那井月俳句大会	b	生涯学習課
38		進徳館の日	b	高遠長谷教育振興課
39		伊那能	b	生涯学習課
40	博物館などの整備・活用	創造館	a	生涯学習課
41		高遠町歴史博物館	b	高遠長谷教育振興課
42		信州高遠美術館	a	生涯学習課
第3節 文化財の保存・継承・活用				
3-1: 文化財の保存・継承・活用				
43	文化財の保存・継承・活用	史跡高遠城跡	b	高遠長谷教育振興課
44		民俗資料館	b	高遠長谷教育振興課
45		旧井澤家住宅	b	生涯学習課
46		考古資料館	c	生涯学習課
47		民俗文化の伝承	b	生涯学習課
第4節 スポーツ・レクリエーションの振興				
4-1: 豊かなスポーツライフの実現				
48	スポーツライフの実現	市民体育祭	b	スポーツ振興課
49		総合型地域スポーツクラブ	a	スポーツ振興課
50		春の高校伊那駅伝	a	スポーツ振興課
51		ソフトボールの振興	a	スポーツ振興課
52		体育施設の整備	a	スポーツ振興課

# 第1節 学校教育の充実

## 1-1: 個性や豊かな人間性を育む学校教育の推進

豊かな人間性や社会性を身に付け、自ら学び、自ら考える「生きる力」を育むため、地域の自然、歴史、産業等に根ざした特色ある教育を進めます。また、基礎・基本の学力の確実な定着を図るとともに、一人ひとりの個性や人権を尊重した教育の充実をめざします。

### (1) 学校教育の充実

事務事業	No.1	総合的な学習	H24 年度決算額	5,090 千円
事業の目的	子どもたちの生きる力、郷土を愛する心を育むため、地域の自然や歴史、文化を学習するなど、伊那市らしい総合的な学習を推進します。			
事業内容	各学校が主体的に取り組む「体験学習」、「交流学習」、「体力づくり」など創造的な学習の支援			
達成状況	○全小中学校において、地域の特色を活かした総合的な学習を実施しました。 ○創造的活動推進事業交付金を、全小中学校に交付しました。			
	区分	学校名	平成 24 年度主な取り組み	
	小学校	伊那	動物飼育 (豚・羊・アルパカ)、農作物栽培、演劇、調理など	
		伊那東	稲・野菜・花栽培、伊那まつり踊り練習と参加、貧困国支援など	
		伊那北	稲・野菜栽培、保育園・高齢者との交流、エコキャップ運動など	
		伊那西	稲・小麦・野菜・花栽培、地域を紹介するパンフレット作りなど	
		富県	稲・野菜・花栽培、富県地区探検、被災地支援活動など	
		新山	新山探検、新山の歴史学習、養護学校との交流、稲・野菜栽培など	
		美篤	動物・昆虫飼育、野菜・花栽培、桜並木活動、保育園との交流など	
		手良	手良地区探検、稲・野菜・花栽培、和太鼓・箏曲等邦楽学習など	
		東春近	稲・野菜・花栽培、東春近探検、りんご学習、権現山登山など	
		西箕輪	稲・野菜栽培、保育園・養護学校・福祉施設との交流など	
		西春近北	稲・野菜栽培、動物・魚飼育、太鼓演奏、海外協力隊との交流など	
		西春近南	花・野菜栽培、豆腐作り、ウサギ飼育、フアホッケーを通じた交流など	
		高遠	稲・野菜・花栽培、町探検、被災地の復興支援、カヌー学習など	
		高遠北	ふるさと探検、稲・野菜・花栽培、地域の蝶の分布調べなど	
	長谷	稲・野菜栽培、ふるさと探検、孝行猿調査、ふるさと祭り参加など		
	中学校	伊那	宿泊学習、調査活動 (方言・太鼓)、交流体験 (キャリア教育) など	
		東部	地域の方や自然に学ぶ活動、ビデオ・映画製作、進路学習など	
		西箕輪	西箕輪の歴史・文化・伝統芸能を学ぶ、福祉交流、職場体験など	
春富		さつまいも栽培、進路学習、職場体験など、		
高遠		キャリアキャンプ、森林学習、職場体験、高遠太鼓など		
	長谷	伝統芸能、長谷の食文化体験、自然体験、地域の歴史探訪など		
事業の課題及び方向性	<p><b>【課題】</b>総合的な学習の位置づけを常に明確にする必要があります。また、「体験学習」や「交流学習」を通して総合的に「生きる力」や「人間関係力」を養う必要があります。</p> <p><b>【方向性】</b>子どもが自ら学び、自ら考え、自ら伸びようとする力を大切に考え、地域の自然や文化・伝統など体験を通して行なわれる総合的な学習を推進します。</p>			
自己評価	a			

事務事業	No.2	学力向上	H24 年度決算額	3,541 千円
事業の目的	自ら学ぶ意欲や学習習慣の形成を図るため、学力検査の結果などを基に授業改善などに努め、児童生徒一人ひとりの実態に応じた学習指導を行います。 また、中学校の放課後行われる自発的な学習活動を支援します。			
事業内容	○標準学力検査（NRT）の実施 ・小学4年生（671人）算数・小学5年生（674人）国語、算数、 ・中学2年生（651人）国語、数学、英語 ○学力検査結果の分析と授業改善 ○中学生の放課後学習支援事業の実施			
達成状況	○伊那市が標準学力検査（NRT）を始めて9年が経過し、小中学校共に基礎・基本の学力の定着がみられます。各校においては、検査結果の分析を基に個別指導、授業改善に取り組むとともに、学力向上と関係が深い「早寝、早起き、朝ごはん、朝読書」など生活習慣の定着を進めました。 ○教育長、指導主事、学校長で構成する「学力検査検討委員会」を設置し、検査結果の検討、分析を行うとともに、「学力向上のための実践事例発表会」（57人参加）を開催し、先進事例の発表をと情報交換を行いました。 ○中学校の放課後学習支援員を募集、委嘱し、中学生の学力向上を支援をしました。 受講生徒数 573人（H22:543、H23:540人） 支援員数 48人（H22:50、H23:52人）			
事業の課題及び方向性	【課題】平成24年度に市が実施した標準学力検査の結果、小学校は、各科目の偏差値平均が、すべて全国平均を上回りました。しかし、中学校は、国語は全国平均を上回りましたが、数学・英語は、全国平均を下回りました。 【方向性】学力検査などの分析を、児童生徒一人ひとりの学習指導に活かすとともに、体験的な学習やグループ学習を取り入れたり、授業をもっと良くする3観点を特に意識した授業改善に取り組み、児童生徒の自発的な学習を促進します。 また、家庭や地域などと連携し、学力向上と関係が深い「早寝、早起き、朝ごはん、朝読書」、「ノーテレビ・ノーゲーム」などの生活習慣の定着を進めます。 引き続き、学校ボランティアの募集を行い、学力向上支援員等の確保に努めます。			
自己評価	b			



高齢者クラブの皆さんとのよもぎ採り・交流会  
(長谷小学校)



「さくらプロジェクト」仙台市立高砂中学校へ  
タカトオコヒガンザクラの植樹  
(東部中学校)

事務事業	No.3	幼保小中の連携	H24年度決算額	0千円
事業の目的	成長段階のスムーズな移行と子どもが抱える課題などについて早い時期から情報の共有を図るため、幼稚園・保育園、小学校、そして中学校が、子どもの育ちと学びの連携を進めます。			
事業内容	○幼保小連絡会、小中連絡会の開催 ○学校行事等を通じた児童生徒の交流 ○保育士、小・中学校教員の相互体験 ○幼保小連携推進委員会開催 ○幼保小連携プログラム作成			
達成状況	○全ての小中学校は、連絡会などを通し、子どもに関する情報の共有を図り、幼・保・小・中が同じ認識で子どもに接することができるようになってきています。 ○支援を要する子どもを対象に「発育発達支援票」を作成し、幼・保・小・中の情報共有を図っています。 ○幼稚園・保育園児が次の教育環境に慣れる取り掛かりとして、一日入学、運動会、音楽会、文化祭など学校行事への参加、クラス交流等が行われました。 ○中学校教職員がで小学校へ出向いて授業をする出前事業等を行い、中学校入学へ期待感を育みました。 ○職員交流として保育士の小学校派遣、小学校職員の保育園1日体験を実施しました。 ○「幼保小連携推進委員会」において、伊那市版「幼保小連携プログラム」を作成しました。			
事業の課題及び方向性	【課題】進学時の学校不適應への対応。 【方向性】児童生徒、教職員の交流などを通じた心的距離の縮小により、学校不適應の減少をはかります。 また、伊那市版「幼保小連携プログラム」を基に、地域の特色等を踏まえた各学校独自のカリキュラムを作成し、プログラムの検証を行います。 さらに、中1ギャップ解消を図るために、新たに小中連携推進委員会を設置します。			
自己評価	b			

事務事業	No.4	読書活動の推進	H24年度決算額	41,670千円
事業の目的	心豊かな人間性と自ら学ぶ学習意欲を育むため、学校図書館の充実を図るとともに、読書活動を推進します。			
事業内容	○図書館司書（非常勤職員）の配置 ○読み聞かせボランティアの活用及び充実			
達成状況	○「朝読書」などの全校一斉読書、地域のボランティア等による読み聞かせを全小中学校行っています。 ○全校に配置した学校図書館司書が、読書活動や図書館活用の支援、読書環境整備に力を発揮しています。 【参考】図書館の本の1人当たり平均貸出冊数 小学校 100.3冊（H22:97.1 H23:93.0）中学校 24.9冊（H22:24.3 H23:22.3） 児童生徒1人当たり蔵書数 37.3冊（H22:35.1冊、H23:36.7冊）			
事業の課題及び方向性	【課題】読書習慣の定着、自主的、主体的学習活動の支援、情報の収集、選択、活用能力の育成が求められています。 【方向性】引き続き学校図書館の蔵書の充実を図るとともに、図書館を活かし子どもの読書活動や調べ学習を支える図書館司書を配置します。 読み聞かせボランティアの活用を図り、読書活動を推進します。			
自己評価	b			

事務事業	No.5	特別支援教育	H24 年度決算額	40,182 千円																												
事業の目的	知的障害、肢体不自由、病弱・身体虚弱、弱視、難聴、言語障害、情緒障害等心身に障害のある幼児児童生徒一人一人の教育的ニーズを把握し、その持てる力を高め、生活や学習上の困難を改善又は克服するため、適切な指導及び必要な支援を行います。																															
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 特別支援教育支援介助員・講師の配置</li> <li>○ 伊那中央病院院内学級の設置、運営</li> <li>○ 「ことばの教室（伊那小学校内）」の設置、運営</li> <li>○ 特別支援教育就学奨励費の支給</li> </ul>																															
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 特別支援学級に在籍する指導生徒の増加に対応するため、特別支援教育支援員を市費で配置しました。</li> </ul> <p>【参考】特別支援学級在籍児童生徒数・クラス数・支援員数</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="2">小学校</th> <th colspan="2">中学校</th> <th rowspan="2">支援員数 ( )講師数</th> </tr> <tr> <th>児童数</th> <th>クラス数</th> <th>児童数</th> <th>クラス数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成 22 年度</td> <td>127</td> <td>30</td> <td>49</td> <td>12</td> <td>23(1)</td> </tr> <tr> <td>平成 23 年度</td> <td>141</td> <td>32</td> <td>68</td> <td>13</td> <td>25(1)</td> </tr> <tr> <td>平成 24 年度</td> <td>152</td> <td>33</td> <td>73</td> <td>15</td> <td>28(1)</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">特別支援教育就学奨励費の支給 130 人 (H22:102、H23:121 人)</p>					小学校		中学校		支援員数 ( )講師数	児童数	クラス数	児童数	クラス数	平成 22 年度	127	30	49	12	23(1)	平成 23 年度	141	32	68	13	25(1)	平成 24 年度	152	33	73	15	28(1)
	小学校		中学校			支援員数 ( )講師数																										
	児童数	クラス数	児童数	クラス数																												
平成 22 年度	127	30	49	12	23(1)																											
平成 23 年度	141	32	68	13	25(1)																											
平成 24 年度	152	33	73	15	28(1)																											
事業の課題及び方向性	<p>【課題】特別支援学級に在籍している児童生徒が増加する傾向にあります。また、通常学級においても学習障害 (LD)、注意欠陥多動性障害 (ADHD)、広汎性発達障害等、学習や生活の面で特別な教育的支援を必要とする児童生徒が増加しており、支援体制の充実が求められています。</p> <p>【方向性】関係機関との連携を図り、子どもの将来を見通した指導・助言を行います。また、必要に応じて支援員を配置します。</p> <p>平成 25 年度から副学籍制度を実施し、特別支援学校に就学する児童生徒と、居住する地域の小中学校の児童生徒の交流及び共同学習の拡充を図ります。</p>																															
自己評価	b																															

事務事業	No.6	外国籍児童生徒の支援	H24 年度決算額	5,696 千円																
事業の目的	通訳、相談、学習支援等の支援体制を整備し、外国籍児童生徒の学校生活への適応、学力の定着を図る。																			
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 日本語教室の設置、運営（伊那東小、伊那北小、東部中）</li> <li>○ 外国語児童生徒支援相談員の設置（伊那東小、伊那北小、東部中） <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 児童生徒の学習及び学校生活の支援、家庭への便りの作成、家庭との連絡、通訳等</li> </ul> </li> <li>○ 発達障害等特別支援を必要とする外国籍児童の支援介助、家庭と学校との連絡、通訳等に当たる支援員の配置（伊那東小）</li> </ul>																			
達成状況	<p>外国籍児童生徒に対する、通訳、相談、学習等の支援を継続して行いました。</p> <p>【参考】外国籍児童生徒数</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th></th> <th>伊那東小学校</th> <th>伊那北小学校</th> <th>東部中学校</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成 22 年度</td> <td>25</td> <td>20</td> <td>21</td> </tr> <tr> <td>平成 23 年度</td> <td>24</td> <td>23</td> <td>22</td> </tr> <tr> <td>平成 24 年度</td> <td>27</td> <td>23</td> <td>20</td> </tr> </tbody> </table>					伊那東小学校	伊那北小学校	東部中学校	平成 22 年度	25	20	21	平成 23 年度	24	23	22	平成 24 年度	27	23	20
	伊那東小学校	伊那北小学校	東部中学校																	
平成 22 年度	25	20	21																	
平成 23 年度	24	23	22																	
平成 24 年度	27	23	20																	
事業の課題及び方向性	<p>【課題】障害があり特別な支援を必要とする外国籍児童への対応や、多様な言語への対応も必要となっています。</p> <p>【方向性】日本語教室の設置、運営と外国語児童生徒支援相談員等の適切な配置を引き続き行います。</p>																			
自己評価	b																			



事務事業	No.7	給食運営	H24年度決算額	273,400千円
事業の目的	児童生徒が食事に関する正しい理解と望ましい食習慣を身につけるため、栄養バランスのとれた給食を提供するとともに、食育を推進します。			
事業内容	○給食運営 ○栄養士、給食技師の配置			
達成状況	給食技師の臨時職員化、食材の共同購入により、経費の削減を図るとともに、栄養士を各学校及び調理場に配置することにより、食育の推進を図り、地産地消の安全安心な美味しい給食を提供しました。(平成24年度県内産食材利用率 約52.6%) 【参考】給食提供数 1,375,516食 (H22:1,397,576、H23:1,387,344) 1食あたりの経費(直接経費/年間給食数) 204円 (H22:217、H23:204円) 給食技師数 73人 (H22:75、H23:74人)			
事業の課題及び方向性	【課題】子どもに安全安心、そして美味しい給食を提供するとともに、子どもの食に対する理解を深める必要があります。 【方向性】関係者の意見を聞きながら計画的な給食施設整備を行い、食文化を高める学校給食への取り組みや人的配置など効率的な運営を図るとともに、食事に関する正しい理解と習慣を身に付けるために食育を推進します。			
自己評価	b			



地域食材を利用した学校給食の様子



献立：ご飯・牛乳・焼そば風ローメン・長芋のゆかりあえ・凍み豆腐のみそ汁・りんご

## (2)教育環境の整備促進

事務事業	No.8	学校施設の建設	H24年度決算額	1,381,892千円
事業の目的	<p>○児童生徒の安全確保と地域の防災拠点の整備を図るため、小中学校の耐震化とトイレの改修を行います。</p> <p>○施設の維持管理を行うとともに、教育環境の改善を図るため、校舎内外の補修等整備を行います。</p>			
事業内容	<p>○補強工事等 新耐震基準に適合していない建物について耐震診断を行い、耐震補強等が必要であると診断された建物について耐震工事を実施します。</p> <p>○補修工事等</p>			
達成状況	<p>○耐震補強・トイレ改修工事等</p> <p>(1) 補強・改築工事の実施 手良小学校管理教室棟、新山小学校管理教室棟・体育館、伊那東小学校普通教室棟、東春近小・西春近北小・富県小・美篤小給水管耐震化、伊那小学校管理・特別教室棟外壁、伊那北小学校管理教室棟外壁、西春近南小学校図工室増築、東部中学校管理教室棟改築 耐震化率 88.3% (H23:78.8%)</p> <p>(2) トイレ改修工事等の実施 高遠小学校・伊那東小学校・新山小学校 (浄化槽更新含む)</p> <p>○ 補修工事等</p> <p>(1) 長谷小学校、高遠小学校給水管改修、伊那中学校体育館屋根改修</p> <p>(2) 高遠中学校校内電話設備改修・伊那北小学校ペレットストーブ設置工事</p>			
事業の課題及び方向性	<p>【課題】安全安心な教育環境を整備するため、学校耐震補強工事を進めます。</p> <p>【方向性】平成26年度末までに、有利な財源を利用して耐震化率100%を目指します。</p>			
自己評価	a			

事務事業	No.9	学校備品整備・情報教育	H24年度決算額	28,754千円
事業の目的	情報教育を含む教育環境の充実を図るため、教材備品及び情報機器の整備を推進します。			
事業内容	<p>○一般教材・理科教材備品の整備</p> <p>○教育用パソコン、ネットワーク環境の整備</p>			
達成状況	<p>○必要な教材備品及び情報機器を整備しました。</p> <p>○情報委員会を開催し、情報セキュリティーに対する意識向上を図りました。</p> <p>○平成24年度は、前年度に引き続き新学習指導要領に対応するための教材備品の整備を進めるとともに、情報機器更新計画案を作成しました。</p> <p>【参考】教育用パソコンの台数 665台 (H22:665、H23:665台) PC教室の1人当たりPC台数1台 (H22:1、H23:1台)</p>			
事業の課題及び方向性	<p>【課題】新学習指導要領に対応する教材備品の整備と、情報機器等の適切な管理を行なう必要があります。また、携帯電話・パソコン等との上手な付き合い方を身につける必要があります。さらに児童生徒用、校務用パソコンの更新計画を策定する必要があります。</p> <p>【方向性】学校からの要望に基づき教材備品や情報機器を整備するとともに、情報セキュリティー意識の向上と正しい利用のための情報モラル教育を進めます。</p>			
自己評価	b			

## 1-2：高校教育との連携

高等学校教育の充実のための支援を実施するとともに、小中学校との連携を図り、一体感のある教育環境を創出します。

### (1)高等学校への支援

事務事業	No.10	高等学校振興	H24年度決算額	2,947千円															
事業の目的	過疎地域高等学校の振興を図るため、高遠高等学校振興会の活動を支援します。																		
事業内容	高遠高等学校振興会活動の支援																		
達成状況	<p>○高遠高等学校振興会へ負担金を支出し振興会事業を支援しました。</p> <p>○平成23年度から振興会で行う通学費補助事業の経費を市で負担しています。</p> <p><b>【参考】</b></p> <p>○平成7年にコース制導入後、文科省の学力向上実践研究校としての実践研究（平成21年度から3年間）、長野大学（平成21年）、日本福祉大学（平成23年）など高大交流協定を進めるとともに、平成24年度、高遠高等学校の将来像検討委員会を設置し、教育内容の改善、充実に努めています。また、伊澤修二記念音楽祭ほか、地域や保育園、小中学校と連携した取り組みを進めています。</p> <p>○入学者数の推移</p> <table border="1" style="margin-left: 40px;"> <thead> <tr> <th></th> <th>平成15年度</th> <th>平成22年度</th> <th>平成23年度</th> <th>平成24年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>入学者数</td> <td>124</td> <td>108</td> <td>103</td> <td>103</td> </tr> <tr> <td>定員</td> <td>120</td> <td>120</td> <td>120</td> <td>120</td> </tr> </tbody> </table> <p>○バス通学費補助 108人、1,347千円（H23:83人、933千円）</p>					平成15年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	入学者数	124	108	103	103	定員	120	120	120	120
	平成15年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度															
入学者数	124	108	103	103															
定員	120	120	120	120															
事業の課題及び方向性	<p><b>【課題】</b> 高遠高等学校は、コース制を導入し、特色ある学校運営を行っています。特色ある学校として存続を図るためにも引き続き支援が必要です。</p> <p><b>【方向性】</b> 高遠高等学校については、魅力ある学校運営と利便性向上に必要な振興活動経費の一部について補助を行います。</p>																		
自己評価	b																		

事務事業	No.11	私立高等学校振興	H24年度決算額	1,011千円
事業の目的	地域の私立高等学校の振興を図るため、私立高等学校の運営を支援します。			
事業内容	伊那西高等学校に対する支援 ・職員の待遇改善・福利厚生、保護者の負担軽減等の支援			
達成状況	<p>同校は、市内の生徒を多数受け入れており、地域の高等学校教育に大きな役割を果たし、地域に根ざした高等学校として定着しています。</p> <p><b>【参考】</b> 定額補助 1校当たり600,000円（H22:600,000、H23:600,000円） 生徒割補助 1人当たり2,600円（H22:2,600、H23:2,600円） 伊那市に住所を有する生徒数158人（H22:186、H23:159人） 全校生徒数486人（H22:487、H23:466人）</p>			
事業の課題及び方向性	<p><b>【課題】</b> 私立高等学校や保護者を取り巻く経済状況は厳しさを増しています。</p> <p><b>【方向性】</b> 地域の高等学校教育に果たす役割や学校運営を取り巻く状況を考慮し、学校運営費補助を継続して行ないます。</p>			
自己評価	b			

### 1-3：心の教育及び支援体制の充実

小中学校における心の問題や不登校、いじめ問題の解消に努めるとともに、良好な環境の中で子育てができるよう家族全体を支援します。

#### (1)心の教育と支援

事務事業	No.1 2	中間教室	H24 年度決算額	4,134 千円
事業の目的	不登校の児童生徒の居場所を確保し、学校復帰へ向け支援、相談及び学習指導を行います。			
事業内容	中間教室の設置 ・適応指導員による相談支援、体験活動、集団活動、学習指導等 【小学部】開設：毎週月～金曜日、時間：9:00～15:30、会場：やまびこ学級1階 【中学部】開設：毎週月～金曜日、時間：9:00～16:00、会場：やまびこ学級2階			
達成状況	○中間教室通室児童生徒のうち小学生の67%、中学生の64%が進学又は学校へ復帰しました。 【参考】通室者数 小学部6人(H22:7、H23:7人) 中学部11人(H22:13、H23:20人) 通室割合 (通室児童生徒数/不登校児童生徒数) 小学部40.0% (H22:53.8、H23:35.7%) 中学部25.0% (H22:21.3、H23:32.3%) ○遠距離から通室する児童生徒の通学費を補助しました。			
事業の課題及び方向性	【課題】長期化した不登校児童生徒への支援が課題であり、未然防止、早期発見、早期対応が求められています。 【方向性】学校、子育て支援教育相談室、医療機関等との連携をとりながら、児童生徒、家庭への早期対応、支援に努めます。			
自己評価	b			

#### ☆ 春富中学校人権宣言

2007年1月19日 春富中学校生徒会

- 第1条 私たちは、いかなる時もお互いに平等であり、楽しく、安心して学校生活を送っていく権利をもつ。
- 第2条 安心して生活できる学校とは、命を大切にし、学校全体に落ち着きがあり、友達を信頼でき、行きたいと思える学校である。そのような学校にするため、私たちは努力しなければならない。
- 第3条 私たちは、個人の性格や容姿、人柄や考え方、身体的な特徴、能力や性別、年齢差などといった個性の違いを理由とした、あらゆる差別や、中傷、いじめなどの行為をしてはならないし、こういった行為を許してはならない。
- 第4条 私たちは学校生活において自分の意見や考えを表現する自由がある。
- 第5条 私たちは、差別されたり、いじめられたり、中傷されたりしたとき、クラスや学年・生徒会、そして親や先生、友達に助けを求めることができる。
- 第6条 差別されたり、いじめられたり、中傷されたりしている人を守るため私たちは立ち上がる義務がある。
- 第7条 私たちは、春富中からいじめや差別をなくしていくために、相手の気持ちを考え、思いやりを持って、行動できるよう努力する。

#### ☆ 西箕輪中学校人権宣言

2010年1月21日 西箕輪中学校生徒会

- 第1条 私たちは、いじめや差別についてよく理解するよう努力し、周りにあるいじめに気付けるようになります。
- 第2条 私たちは、一人ひとりの個性を認め、いじめや差別を絶対に許しません。
- 第3条 私たちは、毎日明るくあいさつをし、みんなが声がけできる環境をつくります。
- 第4条 私たちは、常に相手の気持ちを考えて行動し、温かい言葉で話します。
- 第5条 私たちは、どんな時でも、助け合い、支え合い、励まし合う友達をつくります。

事務事業	No.1 3	子育て教育支援相談、家庭児童相談	H24 年度決算額	16,918 千円
事業の目的	親の教育力と家族機能を高め、子どもの生きる力を培うため、家族、地域、関係機関が連携し、乳幼児期から思春期まで一貫した相談支援を行います。			
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>○関係機関との連携及び支援（保健・医療・福祉・教育・警察・司法等）</li> <li>○要保護児童生徒（虐待を受けている児童、非行、虞犯等）の保護</li> <li>○個別支援検討会議による関係機関の役割分担と連携</li> <li>○就学相談</li> </ul>			
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>○子ども相談室を中心に、関係機関と連携して多数の相談や案件に対応しました。</li> <li>○発達障害を持つ子どもが人とうまくかかわっていくための方法を身につけるためのソーシャルスキルトレーニング（SST）や親の養育力の向上を図るためのペアレントトレーニングを実施しました。</li> <li>○児童虐待へ対応を強化するため、関係機関の研修を実施しました。また、個別ケース支援会議を開催し通告後の子供の安全を守るための支援を強化しました。</li> </ul> <p>【参考】相談・支援数 2,997 件（H22：3,775、H23：2,339 件）  個別支援検討会議 258 回（H22：134、H23：165 回）  就学相談委員会に諮った幼児児童生徒数：91 名（H22：103、H23：71 名）</p>			
事業の課題及び方向性	<p>【課題】相談件数が増加する中、相談内容は多様化し、緊急性を増しています。また、児童虐待については、幅広い見識や専門性の高い対応が求められています。</p> <p>【方向性】増加する相談に迅速かつ適切に対応するため、専門職を配置します。また、児童福祉法や障害者自立支援法の改正に伴い、小鳩園の相談支援部門と子ども相談室の機能の一本化を図ります。（H25 年度実施）</p> <p>健康推進課や子育て支援課と連携し、妊娠期から対応できる養育支援ネットワークシステムを構築します。</p>			
自己評価	a			

事務事業	No.1 4	不登校児童生徒支援ネットワーク	H24 年度決算額	22,928 千円																				
事業の目的	子育て教育支援相談室を中心に、学校、中間教室、福祉、医療、民間支援団体等、関係機関が連携し不登校児童生徒の早期発見、早期対応、支援を行います。																							
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学校、子育て支援相談室等が連携し不登校児童生徒の支援に取り組む。</li> <li>○中学校への教員補助員配置</li> <li>○上伊那子どもサポートセンターの運営費支援</li> </ul>																							
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>○平成 21 年度以降は増加傾向に歯止めがかかり、一定の成果が表れています。</li> <li>○不登校・不適応の傾向を持つ生徒の生活指導や教科指導を行うため、中学校への教員補助員等を配置しました。（5 中学校へ 8 人、不登校支援コーディネーター 1 名）</li> </ul> <p>【参考】不登校児童生徒数・割合（ ）は%</p> <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th></th> <th>H20</th> <th>H22</th> <th>H23</th> <th>H24</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小学校</td> <td>30 人 (0.70)</td> <td>13 人 (0.31)</td> <td>15 人 (0.37)</td> <td>15 人 (0.37)</td> </tr> <tr> <td>中学校</td> <td>70 人 (3.27)</td> <td>61 人 (2.90)</td> <td>62 人 (2.91)</td> <td>44 人 (2.11)</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>100 人 (1.56)</td> <td>74 人 (1.19)</td> <td>77 人 (1.24)</td> <td>59 人 (0.96)</td> </tr> </tbody> </table>					H20	H22	H23	H24	小学校	30 人 (0.70)	13 人 (0.31)	15 人 (0.37)	15 人 (0.37)	中学校	70 人 (3.27)	61 人 (2.90)	62 人 (2.91)	44 人 (2.11)	合計	100 人 (1.56)	74 人 (1.19)	77 人 (1.24)	59 人 (0.96)
	H20	H22	H23	H24																				
小学校	30 人 (0.70)	13 人 (0.31)	15 人 (0.37)	15 人 (0.37)																				
中学校	70 人 (3.27)	61 人 (2.90)	62 人 (2.91)	44 人 (2.11)																				
合計	100 人 (1.56)	74 人 (1.19)	77 人 (1.24)	59 人 (0.96)																				
事業の課題及び方向性	<p>【課題】早期発見、早期対応等により、不登校が長期化させない対応が必要です。</p> <p>【方向性】スクールカウンセラー、子どもと親の相談員等の相談・支援体制の充実を図るとともに、関係機関との連携をさらに深めて対応します。</p> <p>また、児童生徒理解に基づく不登校児童生徒の早期発見・早期対応等、新たな不登校を出さないための取組みを進めます。</p>																							
自己評価	b																							

事務事業	No.15	子どもと親の相談員の配置	H24年度決算額	10,507千円
事業の目的	小中学校に児童生徒が抱える不安や、悩みの相談に当たる相談員を配置し、児童生徒が安心して充実した学校生活を送ることができるよう支援する。必要に応じて学校、スクールカウンセラー等と連携し、不登校傾向の児童生徒の家庭訪問等の支援を行う。			
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 児童の話し相手・悩み相談</li> <li>○ 不登校傾向の児童の早期発見・早期対応（家庭訪問含む）</li> <li>○ 不登校児童及び不登校児童をかかえる家庭への対応等</li> <li>○ 市費相談員の配置 相談員13人を16校へ配置（2校兼務3人） （他に、県費子どもと親の相談員1名）</li> </ul>			
達成状況	<p>相談件数は増加しており、不登校やいじめを未然に防ぐ相談が定着してきています。また、相談員は市費で配置し、個別の相談に対応しています。</p> <p>【参考】 小学校における延べ相談件数6,726件（H22:8,227、H23:8,428件） 中学校における延べ相談件数4,682件（H22:3,952、H23:5,176件）</p>			
事業の課題及び方向性	<p>【課題】子どもの悩みが、不登校やいじめに発展する前に、心の教育相談による早期対応が求められています。</p> <p>【方向性】初期の相談窓口として定着を図るとともに、専門性・緊急性を要する相談についてはスクールカウンセラーや子ども相談室へ引き継ぎます。</p>			
自己評価	b			

事務事業	No.16	スクールカウンセラーの配置	H24年度決算額	1,120千円
事業の目的	児童生徒、保護者及び教職員等に対し、心理的側面から専門的援助を行い、教育相談体制の充実を図ります。			
事業内容	<p>スクールカウンセラーの配置 全小中学校</p> <p>・県費配置4人に加え市費による配置時間の上乗せを行い、適時の相談支援に努める。</p>			
達成状況	<p>県から配当された相談時間では十分な対応できないため、不足分を市費で上乗せし対応しました。</p> <p>【参考】 相談件数 小学校延べ851件（H22:555、H23:534件） 中学校延べ871件（H22:702、H23:859件） 相談配当時間 県費 858時間（H22:782、H23:911時間） 市費 222時間（H22:256、H23:288時間）</p>			
事業の課題及び方向性	<p>【課題】スクールカウンセラー他関係機関等と連携した支援による、不登校、不適應への早期対応が求められていますが、十分な人的配置が確保されているとは言えない状況にあります。</p> <p>【方向性】県の配当時間を増やすよう働きかけるとともに、市としても必要な時間について対応していきます。</p>			
自己評価	b			

## 第2節 生涯学習・芸術文化の振興

### 2-1：生涯学習の振興

自然や文化、歴史、産業等地域の特徴を生かした生涯学習を推進し、年齢や職業を超えたあらゆる人々が興味を持って学ぶことのできる環境づくりを進めます。

ライフスタイルの多様化などにより、生涯学習に対するニーズや関心は、ますます高まっています。第1次伊那市総合計画に基づき平成22年度末に策定した、生涯学習の総合的な指針「生涯学習基本構想」の基本理念「共に学び、今に生かし、更に深め、未来へとつなぐ」に基づき、生涯学習事業を推進します。

#### (1)生涯学習・社会教育の推進

事務事業	No.17	市民大学	H24年度決算額	2,605千円
事業の目的	市民の生涯学習の機運を醸成し、生涯学習を推進するため、学習要求に応えた各種講座を開催します。			
事業内容	講座の実施 ・芸術文化、歴史、自然科学、健康、音楽、人権などに関する講座の開催			
達成状況	受講者は、各学年定員を超過している状況で、市民の学習要求の高さが現れています。この学習要求に応えるため、学生による自主運営を行いながら、講座内容の充実を図っています。			
	平成24年度 講座内容			
	「心温まる鬼の話」(講師：高橋基)			
	JICA国際協力出前講座「海外派遣での活動体験から」(講師：佐藤利春)			
	「トークと語りべの世界」(講師：美咲蘭)			
	「古田人形浄瑠璃公演」(公演：古田人形浄瑠璃保存会)			
	ふるさと講座「羽広の獅子舞」(公演：羽広獅子舞保存会)			
	信大出前講座「活断層地震に備える」(講師：廣内大助)			
	「上伊那の祭りと行事」Ⅱ(講師：北村皆雄)			
	「野草講座・鹿嶺高原」(講師：柄山祐希)			
	「いつも輝いている人に～学びを大切に～」(講師：久保村清一 副学長)			
	「市政よもやま」(講師：白鳥孝 学長)			
	人権同和教育講座「すべてのいのちがいとおいしい」(講：李政美)			
	「南アルプス戸台の化石」(講師：北村健治)			
	「脳・体・心の活性体操～シナプスロジー～」(講師：山岸洋子)			
	「絶滅危惧種オオルリシジミ」(講師：江田彗子)			
	「Beauty～美しいもの」上映会と後藤監督のトーク(講師：後藤俊夫)			
	「与謝野晶子からのメッセージ」(講師：堀井正子)			
	「成年後見制度と遺言の話」(講師：熊谷健)ほか10講座 計27講座			
	事業の課題及び方向性	【課題】変化する社会に適応できる力をつけるために、受講者の学習要求を的確にとらえた魅力ある講座運営を行う必要があります。		
【方向性】受講生による自主運営を基本に、魅力ある講座等を企画運営します。また、2年間の学習の成果が地域での活動にいかせるように促します。				
自己評価	b			

事務事業	No.18	桜大学	H24 年度決算額	509 千円
事業の目的	生活にうるおいと生きがいを与え人生を心豊かに生きるため、生涯学習を推進します。			
事業内容	講座の開催 ・4回開催(4月29日～11月18日 会場:やますそ)			
達成状況	公民館活動のひとつとして実施され、34回目を迎えた伝統ある大学です。			
	平成 24 年度講座内容(講師)			
	「保科正之と「保科家」～養家への恩義とこだわり」 (福島県立博物館主任学芸員・阿部 綾子)			
	「夢を探そう」(東京藝術大学学長・宮田 亮平)			
	「笑いと健康」～落語入門(落語家・三遊亭 全楽)			
事業の課題及び方向性	【課題】講座内容、講師など地域の特性を活かした運営が求められています。			
	【方向性】長年開催され、高遠町地域における生涯学習の場として定着しており、合併後、市民大学との共催講座なども実施し、伊那、長谷地域からの参加者も増えています。地域に縁がある方、地域について研究されている方などを講師に招き、地域の特性を生かした運営を行います。また、経費についても工夫しながら事業を進めます。			
	【参考】受講者数 600 人 (H22:555、H23:555 人)			
自己評価	a			

事務事業	No.19-1	長谷生涯学習講演会	H24 年度決算額	440 千円
事業の目的	地域住民の生活及び文化、教養の向上を図るため、生涯学習の場を提供します。			
事業内容	講演会の開催(11月11日 会場:長谷公民館) ・公民館・小中学校・小中学校PTAが共催し、著名な講師を招き講演会を開催しています。			
達成状況	平成 24 年度 講演「がんばらない生き方」(早稲田大学教授 池田清彦 氏) 生物学者で早稲田大学国際教養学部教授の池田清彦氏を招き、がんばらない生き方をテーマに講演いただいた。			
	【参考】受講者数 168 人 (H22:229、H23:187 人)			
事業の課題及び方向性	【課題】講座内容、講師など地域の特性を活かした運営が求められています。			
	【方向性】住民が質の高い文化に触れる貴重な機会として、今後も工夫しながら進めます。			
自己評価	a			

事務事業	No.19-2	親孝行の讃歌事業	H24 年度決算額	2,080 千円
事業の目的	民話「孝行猿」の教育への活用と長谷地域の振興を図ります。			
事業内容	「どうしても伝えたい両親への手紙」を一般の部・小中学生の部に分け公募しました。			
達成状況	応募状況 一般の部 79 点 ・小中学生の部 337 点 合計 416 点 入選作品 一般の部 孝行賞 3 点ほか入選 14 点 佳作 10 点 小中学生の部 孝ちゃん最優秀賞 1 点 ほか孝ちゃん賞 16 点 佳作 30 点 公募期間 平成 24 年 7 月 1 日～10 月 31 日 表彰式 平成 25 年 2 月 10 日開催			
	【課題】公募体制の全国的な展開と孝行猿を活かした地域振興策の実施が求められています。			
事業の課題及び方向性	【方向性】まずは友好都市や関係ある市町村の協力を得て、全国的な展開を図ります。			
	【参考】			
自己評価	b			



## (2)公民館活動の推進

事務事業	No.20	集会施設整備事業補助	H24年度決算額	4,111千円	
事業の目的	地域住民の福祉の向上、コミュニティの推進、災害時の拠点の確保などに資するため、集会施設等を整備する費用の一部を補助します。				
事業内容	伊那市集会施設整備事業補助金交付要綱に基づき、集会施設の新築・増築・改築及び改修工事の補助金を交付します。 ・対象施設及び交付基準				
	施設区分	事業区分	補助要件等		
	公民館の分館 又は区が管理 運営する集会 施設	新築	補助率 工事費の25%以内 補助限度額 最高750万円まで 最低事業費 100万円以上		
		増築・改築・ 改修	補助率 工事費の25%以内 補助限度額 最高120万円まで 最低事業費 50万円以上		
		水洗化・ 耐震補強	補助率 工事費の30%以内 補助限度額 最高150万円まで 最低事業費 50万円以上		
		外構整備・ 舗装	補助率 工事費の25%以内 補助限度額 最高120万円まで 最低事業費 50万円以上		
	町内会・常 会・組等が管 理運営する集 会施設	新築・増築	対象外		
		改築・改修	補助率 工事費の25%以内 補助限度額 最高50万円まで 最低事業費 25万円以上		
		水洗化・ 耐震補強	補助率 工事費の30%以内 補助限度額 最高60万円まで 最低事業費 25万円以上		
		外構整備・ 舗装	補助率 工事費の25%以内 補助限度額 最高50万円まで 最低事業費 25万円以上		
達成状況	○集会施設の公共性を考慮し、対象工事の経費の一部を補助しました。 【参考】補助施設数 8件 4,111千円 (H22:8、H23:8件) ○平成23年度から、合併前の3市町村の交付要綱を統一した、新要綱を運用しています。				
事業の課題 及び方向性	【課題】地元要望がある施設については計画的に改築等を進める必要があります。 また、他の同様な補助事業主管課との調整が必要です。 【方向性】集会施設等は、地域住民の福祉の向上、コミュニティ活動の推進、災害時の拠点の確保などに資する事業であるため、予算の範囲内で計画的に、費用の一部を補助します。				
自己評価	b				

事務事業	No.21	公民館建設（施設管理）	H24年度決算額	154,153千円
事業の目的	地域の生涯学習の拠点整備や地域コミュニティの形成など地域づくりを推進するため、老朽化した公民館を計画的に建設します。 また、公民館の施設維持に必要な改修等を行いません。			
事業内容	○施設改築 西箕輪公民館、伊那公民館、手良公民館の建て替えについて順次計画を策定 ○施設改修等整備			
達成状況	○本年度は、実施計画に沿って西箕輪・伊那公民館建設用地の決定・調整を行いました。			
事業の課題及び方向性	【課題】西箕輪公民館、伊那公民館、手良公民館の建て替えを計画的に進める必要があります。 【方向性】有利な財源を確保しながら計画的に建築を進めます。			
自己評価	b			

事務事業	No.22	公民館共同事業	H24年度決算額	7,549千円
事業の目的	青少年の健全育成と家庭教育の充実を全市的に図るため、未就園・未就学の子ども、小学生とその家庭などを対象に、9公民館が共同して子ども向けの事業を実施します。 地域の公民館分館活動を支援するとともに、地域理解を深めるため「ふるさと講座」の開催し、公民館活動への理解を深めてもらうため広報誌を発行します。			
事業内容	○ジオキャンプの開催 ○「キッズ王国」(小学生以下対象)などの開催 ○分館活動委託事業の実施 ○「公民館報いな」の発行			
達成状況	各事業への参加者は多く、集団の中で異年齢の子どもたちは「体験」を通して多くを学び、それぞれの事業目的が達成されています。 ・「ジオキャンプ」(18人) ・「キッズ王国」(796人) ・「ふるさと講座」(長谷、95人) ・84分館に活動委託 ・館報隔月発行第404号～第410号			
事業の課題及び方向性	【課題】児童の居場所づくりや、「体験」「子ども主体の活動」の場としてニーズが高い事業であるため、地域や関係団体と連携し、充実を図る必要があります。 【方向性】縦社会の再構築を願って「子どもが集う公民館」を重点テーマに、参加規模が大きな事業について公民館全体で共同事業として取り組みます。また、支援ボランティアの確保を進めます。			
自己評価	a			



「第6回 森の音楽祭 in 春近郷」  
(東春近公民館)

事務事業	No.23	公民館事業	H24 年度決算額	4,744 千円
事業の目的	生涯学習を通じた生きがいつくりや地域づくりを推進するため、市内9公民館において、教室・講座・イベントなどを開催します。			
事業内容	高齢者、女性、成人、青少年、家庭など様々な分野において教室・講座・イベントなどを開催			
達成状況	各地域の特色や住民要望に応えた公民館活動が行なわれ、生涯学習の推進と地域づくりの役割を果たしています。			
	公民館	平成 24 年度活動内容(特徴的なもの)		
	伊那	夏休みおいで塾、小学生将棋教室、らっこルーム、伊那おやじの会、絵手紙教室、陶芸教室、元旦ジョギング、野草講座、探鳥会など		
	富 県	夏休み・富県こどもおいで塾、こども公民館書道教室、富県と良寛さん、のどか学級、高鳥谷山区民ハイキング、生きもの探検隊など		
	美 篤	親子青空教室、「芽と実」読み聞かせ、場広山ハイキング、すくすくベビー、母から娘へ伝えたい味講習会、童謡・唱歌の集いなど		
	手 良	わいわいくらぶ、勸智塾、俳句教室、野草講座、地区大運動会、文化芸能発表会、文化祭、ニュースポーツ教室など		
	東春近	子ども体験教室、楽生学級、フォークソング奏で隊、チャレンジおっとこ塾、童謡唱歌を楽しむ会、森の音楽祭、区民ハイキングなど		
	西箕輪	わんぱく親子塾、サッカー教室、通学合宿、脳イキイキ出前講座、夏・秋・冬の自然観察会、高原マラソン大会、星空観察会など		
	西春近	西春近てらこや塾、出前講座、父居屋の会、かるがも学級、女論の会、万年青の会、女性トリムバレーボール大会、文化祭、趣味の会発表会など		
	高 遠	進徳館夏の学校、高遠中学校通学合宿、里山の文化を歩く講座、さくらんぼきつず、桜大学講座、そば打ち講座、やさしい論語教室、南アルプスジオパーク講座など		
長 谷	はせっこサマースクール、入野谷講座、戸台の化石学習会、ソフトテニス教室、くじらくらぶ、歩け歩け運動、おさんぽくらぶなど			
	【参考】講座・教室・イベントなど公民館利用者数数 167,808 人 (H22:171,754、H23: 165,606 人)			
事業の課題及び方向性	<p>【課 題】生活に結びついた公民館活動を通して、生涯学習と地域づくりを進める必要があります。</p> <p>【方向性】(1)まなぶ…いつでも、どこでも、だれもが学ぶことができ、学び合い、育ち合い、高めあう機会と場を提供します。</p> <p>(2)つなぐ…出会い、ふれあい、交わりを大切にし、仲間づくりと地域の交流を進めます。</p> <p>(3)つくる…地域課題に取り組み、生き生きとした地域づくりと地域文化の伝承と創造を目指します。</p>			
自己評価	b			

### (3)図書館の充実

事務事業	No.24	蔵書管理	H24年度決算額	19,394千円																																																			
事業の目的	市民が自主的な学習を行う「知の拠点」となるため、図書や情報資料の提供の充実を図ります。																																																						
事業内容	○図書館資料の管理（選書、発注、装備・修理、廃棄） ○空間利用（書架などの配置・案内表示） ○図書館システムの維持・管理と更新																																																						
達成状況	<p>優良図書の整備に努めるとともに、市民の知の拠点として定着しています。</p> <p>○平成24年度</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>資料をPC・携帯から予約できるインターネット予約を導入しました。</li> <li>資料運搬車両の更新を行いました。（伊那）</li> <li>前年度に引き続き、古文書デジタル化を進めました。（高遠）</li> </ul> <p><b>【参考】</b> 蔵書数は図書のみ、（ ）内 H23</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>名称</th> <th>蔵書冊数</th> <th>貸出冊数</th> <th>登録者数（個人）</th> <th>利用者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>伊那図書館</td> <td>211,291 (208,978)</td> <td>369,248 (372,747)</td> <td>50,675 (49,225)</td> <td>76,521 (77,595)</td> </tr> <tr> <td>高遠図書館</td> <td>92,799 (92,012)</td> <td>54,927 (51,777)</td> <td>6,152 (5,999)</td> <td>11,013 (11,210)</td> </tr> </tbody> </table> <p>・他市町村比較表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>人口一人当たり蔵書冊数（冊）</th> <th>人口一人当たり貸出冊数（冊）</th> <th>登録率% （登録者数／人口）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>伊那市</td> <td>4.4</td> <td>6.0</td> <td>82</td> </tr> <tr> <td>駒ヶ根市</td> <td>5.3</td> <td>6.4</td> <td>48</td> </tr> <tr> <td>辰野町</td> <td>4.1</td> <td>4.0</td> <td>69</td> </tr> <tr> <td>箕輪町</td> <td>2.7</td> <td>4.4</td> <td>49</td> </tr> <tr> <td>飯島町</td> <td>8.0</td> <td>6.2</td> <td>89</td> </tr> <tr> <td>南箕輪村</td> <td>5.6</td> <td>7.6</td> <td>61</td> </tr> <tr> <td>中川村</td> <td>11.8</td> <td>6.6</td> <td>96</td> </tr> <tr> <td>宮田村</td> <td>6.7</td> <td>5.8</td> <td>71</td> </tr> </tbody> </table>				名称	蔵書冊数	貸出冊数	登録者数（個人）	利用者数	伊那図書館	211,291 (208,978)	369,248 (372,747)	50,675 (49,225)	76,521 (77,595)	高遠図書館	92,799 (92,012)	54,927 (51,777)	6,152 (5,999)	11,013 (11,210)		人口一人当たり蔵書冊数（冊）	人口一人当たり貸出冊数（冊）	登録率% （登録者数／人口）	伊那市	4.4	6.0	82	駒ヶ根市	5.3	6.4	48	辰野町	4.1	4.0	69	箕輪町	2.7	4.4	49	飯島町	8.0	6.2	89	南箕輪村	5.6	7.6	61	中川村	11.8	6.6	96	宮田村	6.7	5.8	71
名称	蔵書冊数	貸出冊数	登録者数（個人）	利用者数																																																			
伊那図書館	211,291 (208,978)	369,248 (372,747)	50,675 (49,225)	76,521 (77,595)																																																			
高遠図書館	92,799 (92,012)	54,927 (51,777)	6,152 (5,999)	11,013 (11,210)																																																			
	人口一人当たり蔵書冊数（冊）	人口一人当たり貸出冊数（冊）	登録率% （登録者数／人口）																																																				
伊那市	4.4	6.0	82																																																				
駒ヶ根市	5.3	6.4	48																																																				
辰野町	4.1	4.0	69																																																				
箕輪町	2.7	4.4	49																																																				
飯島町	8.0	6.2	89																																																				
南箕輪村	5.6	7.6	61																																																				
中川村	11.8	6.6	96																																																				
宮田村	6.7	5.8	71																																																				
事業の課題及び方向性	<p><b>【課題】</b> 市民の「知の拠点」として、多様化する市民の知的ニーズに応えるとともに図書や図書館を取り巻く社会状況の変化に対応していく必要があります。</p> <p><b>【方向性】</b> 調査・研究・資料の収集整理をし、情報提供を積極的に行ないます。また、イベントなどを通して、親しみやすい図書館になるよう努めます。</p>																																																						
自己評価	b																																																						



#### (4)生涯学習センターの充実

事務事業	No.27	生涯学習センター	H24年度決算額	82,954千円																								
事業の目的	市民に生涯学習の機会を提供するとともに、中心市街地の活性化と活力あるまちづくりを推進するため、生涯学習センターを適正かつ円滑に管理運営します。																											
事業内容	○施設管理 生涯学習センター部分は直営で管理し、ビル共用部分は共益費を負担して「いなっせ管理組合」が管理 ○貸し館業務 ○自主事業の運営																											
達成状況	利用者数に若干の変動はあるものの、自主事業などに多数の参加があり、貸し館としての稼働率も高く、中心市街地の誘客に役割を果たしています。 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th colspan="2" style="text-align: center;">平成24年度 自主事業 (内容)</th> </tr> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;">芸術文化体験教室 (飾り巻き寿司教室、イタリア料理、フラダンスほか29講座)</td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;">第9回伊那市民芸術文化祭 (舞台発表の部、美術展の部)</td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;">第8回伊那谷伝統文化公演 (現代狂言「鬼瓦」、源氏物語「葵の上」)</td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;">音楽公演事業 (「前田拓郎ピアノリサイタル」ほか7事業)</td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;">四季のコンサート (「音楽史コンサートVI」ほか4事業)</td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;">青少年音楽事業 (「singing on the road～湯澤かよこLive」ほか6事業)</td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;">フライデーコンサート (「アエラト一口」ほか1事業)</td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;">軒下コンサート (JAM SESSION・上原バンド、伊那中学校吹奏楽部ほか5団体)</td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;">語学教室 (日本語教室さくら組、初級・中級 韓国語講座)</td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;">自主企画教室 (オカリナ教室ほか11講座)</td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;">自主企画イベント (春休み子ども人形劇場)</td> </tr> </table> <p>【参考】利用室数 10,135コマ (H22:9,307、H23:9,619コマ)          利用者数 173,599人 (H22:165,459、H23:171,780人)          各室平均稼働率 60.0% (H22:56.0、H23:57.6%)</p>				平成24年度 自主事業 (内容)		芸術文化体験教室 (飾り巻き寿司教室、イタリア料理、フラダンスほか29講座)		第9回伊那市民芸術文化祭 (舞台発表の部、美術展の部)		第8回伊那谷伝統文化公演 (現代狂言「鬼瓦」、源氏物語「葵の上」)		音楽公演事業 (「前田拓郎ピアノリサイタル」ほか7事業)		四季のコンサート (「音楽史コンサートVI」ほか4事業)		青少年音楽事業 (「singing on the road～湯澤かよこLive」ほか6事業)		フライデーコンサート (「アエラト一口」ほか1事業)		軒下コンサート (JAM SESSION・上原バンド、伊那中学校吹奏楽部ほか5団体)		語学教室 (日本語教室さくら組、初級・中級 韓国語講座)		自主企画教室 (オカリナ教室ほか11講座)		自主企画イベント (春休み子ども人形劇場)	
平成24年度 自主事業 (内容)																												
芸術文化体験教室 (飾り巻き寿司教室、イタリア料理、フラダンスほか29講座)																												
第9回伊那市民芸術文化祭 (舞台発表の部、美術展の部)																												
第8回伊那谷伝統文化公演 (現代狂言「鬼瓦」、源氏物語「葵の上」)																												
音楽公演事業 (「前田拓郎ピアノリサイタル」ほか7事業)																												
四季のコンサート (「音楽史コンサートVI」ほか4事業)																												
青少年音楽事業 (「singing on the road～湯澤かよこLive」ほか6事業)																												
フライデーコンサート (「アエラト一口」ほか1事業)																												
軒下コンサート (JAM SESSION・上原バンド、伊那中学校吹奏楽部ほか5団体)																												
語学教室 (日本語教室さくら組、初級・中級 韓国語講座)																												
自主企画教室 (オカリナ教室ほか11講座)																												
自主企画イベント (春休み子ども人形劇場)																												
事業の課題及び方向性	<p>【課題】学習及び文化活動を通し市民相互の交流を促進するとともに、中心市街地の活性化に効果のある施設の運用について、更に検討する必要があります。</p> <p>【方向性】利用者ニーズにあった自主事業を推進します。また、開館日数、開館時間など利用者の利便を図るとともに、利用者の意見を反映させることができる管理運営方法について検討を進めます。</p>																											
自己評価	b																											



高遠ぶらりワークショップ  
(伊那図書館)



世界の料理教室 (タイ編)  
(生涯学習センター)

## (5)人権同和教育の推進

事務事業	No.28	社会人権同和教育	H24年度決算額	2,823千円
事業の目的	人権問題に対する理解を促進し、全ての人の基本的人権を尊重するため、人権問題について学習する機会を提供します。			
事業内容	<p>人権問題についての講演会、巡回講座、学習講座を開催</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・同和問題だけでなく、いじめなどの問題も含め、人権問題について学習する機会を提供します。</li> <li>・人権同和教育講座・学級などの開催</li> <li>・情報紙「えがお」の発行</li> </ul>			
達成状況	<p>公民館等と連携して開催している講座・学級が定着し、幅広い世代で人権問題に対する理解が図られています。</p> <p>【参考】講演会3回・1,063人（H22:3回・823人、H23:3回・646人）          公民館人権講座11回・400人（H22:10回・538人、H23:11回・456人）          人権同和教育学級3回（H22:39、H23:32回）</p>			
事業の課題及び方向性	<p>【課題】同和対策関係特別措置法は失効しましたが、基本的人権を尊重し、同和問題のみならず、「いじめ」など全ての差別を防止する必要があります。</p> <p>【方向性】市民の重要課題として、人権教育の場や情報を提供などの啓発活動を進めます。</p>			
自己評価	b			

事務事業	No.29	学校人権同和教育	H24年度決算額	1,630千円
事業の目的	人権教育はすべての教育の基本という理念に立ち、各教科、道徳、総合的な活動の時間、特別活動などの特質に応じて、教育活動全体を通じて計画的に推進し、人権感覚を培い、人権課題を自ら解決する意欲と実践力を持つ子どもたちを育てる。			
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>○伊那市学校人権同和教育研究推進委員会の開催（委員長・副委員長・委員各学校1名）</li> <li>○副読本「あけぼの」配布（小学1・3・5年生、中学1年生）</li> <li>○人権教育講演会等の実施</li> </ul>			
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>○全ての小中学校において、それぞれの地域性、課題等の実態に沿った人権同和教育計画を立て、全教育活動を通じて実践した。</li> <li>○伊那市学校人権同和教育研究推進委員会の開催 4回              学社連携による推進会議（2回）職員研修会、人権同和教育研究授業参観・授業研究会開催。</li> <li>○人権同和教育副読本「あけぼの」を小学校1.3.5年生、中学校1年生に配布し活用</li> <li>○人権教育プログラムCAPワークショップを8小学校で実施              (H24:児童442人教職員・保護者237人 H23 児童400人、保護者、教職員167人)</li> </ul>			
事業の課題及び方向性	<p>【課題】経済状況、いじめ、児童虐待等子どもたちを取り巻く環境は深刻です。また、子どもたちのコミュニケーション力、自尊感情の低下等が懸念されています。</p> <p>【方向性】教職員が豊かな人権感覚を持ち、人権尊重の理念に基づいた人権教育を実践する力量を高めるよう教職員研修の充実にも努めるとともに、子どもたちの実体験の機会を増やす等豊かな人間性の育成に努めます。</p>			
自己評価	b			

## 2-2：青少年健全育成と家庭教育の充実

青少年の健全育成に向けて、地域で青少年を育てる環境づくりを進め、あわせて学校、行政、地域一体となった家庭教育の充実策に取り組みます。

### (1)青少年の健全育成

事務事業	No.30	学童クラブ	H24年度決算額	128,625千円
事業の目的	下校後、保護者が就労などにより不在のため、適切な保護が受けられない児童の保護及び健全育成を図ります。			
事業内容	学童クラブの設置 伊那小(2クラブ)、伊那東小(2クラブ)、伊那北小(2クラブ)、伊那西小、富県小、美篤小、手良小、東春近小、西箕輪小、西春近北小、西春近南小、高遠小、高遠北小、長谷小の14校に開所			
達成状況	入所者が多い伊那小・伊那東小・伊那北小学童クラブは2クラブ体制で対応しています。 【参考】学童クラブ17箇所 (H22:15、H23:16箇所) 入所者数504人 (H22:471、H23:494人) クラブ設置小学校数/小学校数93% (H22:80、H23:87%) 入所者数/児童数12.4% (H22:11.4、H23:12.2%)			
事業の課題及び方向性	【課題】保護者の就労支援や児童の健全育成のためニーズが高まっています。 【方向性】大規模クラブの解消(分割)や老朽・狭隘施設の整備、開所日数の拡充、指導員の確保など学校や地域等と連携を図りながら課題を解決し、事業の充実を進めます。			
自己評価	b			

事務事業	No.31	子ども週末活動の支援	H24年度決算額	1,559千円
事業の目的	週末の子どもの居場所づくりの一環として、体験活動を通して「ものの見方、考え方、協力、自主性」などを身に付けるとともに、地域で主体的に活動できるジュニア・リーダーの育成を図ります。			
事業内容	はなまる地域探検隊の設置 ・概ね小学3年生以上の市内小中高校生が交流			
達成状況	学年の枠を越えた仲間の中で、協力し合い、多くのことを体験することにより、地域で自分たちが活躍できる資質を身に付けています。 ○平成24年度の主な活動 ・わんぱく広場参加、ふるさと探検、技能オリンピック出前講座、第50回技能五輪全国大会見学、郷土食づくり、焚火教室、国際交流など。 ・はなまる探検隊から育った高校生が推進委員として企画・運営へ参加している。 【参考】はなまる地域探検隊登録者数57人 (H22:45、H23:59人) 児童数に占める割合(登録者数/児童数)1.2% (H22:1.1、H23:1.2%)			
事業の課題及び方向性	【課題】子どもの居場所、縦割りの仲間づくりに重要な組織。今後の支援、関わり方 【方向性】設立から10年が経過し、平成24年度より「はなまる探検隊」として自主的な運営を期待し、委託事業として継続していく。			
自己評価	b			



事務事業	No.3 2	少年補導委員会・少年補導センター	H24 年度決算額	1,270 千円
事業の目的	青少年の健全育成と非行防止を図るため、関係団体と連携を図り、街頭指導などを実施します。			
事業内容	少年補導センター及び補導委員の配置 ・少年補導センターの運営 ・補導委員は、55 人を 11 班に編成し、毎週土曜日と第 3 日曜日に街頭指導を実施するとともに、学校の長期休暇中は特別街頭指導を実施。 ・「補導センターだより」の発行（年 2 回）			
達成状況	街頭指導による指導件数は増加傾向にあり、指導が非行防止の一助となっています。 【参考】補導活動延べ人員 431 人（H22:443、H23: 461 人） 指導（声かけ）件数 66 件（H22:96、H23:198 件）			
事業の課題及び方向性	【課題】子どもを非行へ誘惑する要因が増えるとともに、子どもの規範意識が薄くなっています。 【方向性】少年を取り巻く環境は多様化しており、少年の健全育成を図るため、引き続き補導委員を中心に地域が子どもを見守る体制づくりを進めます。			
自己評価	c			

事務事業	No.3 3	子ども会・育成会	H24 年度決算額	2,779 千円
事業の目的	青少年の健全育成事業を推進するため、各地区 34 子ども会・育成会が子どもに係る各種事業を行います。			
事業内容	○地区における青少年の健全育成及び家庭教育推進活動 ○子どもの安全、有害環境の排除 ○よりよい教育環境推進協議会などへ参画			
達成状況	子どもにかかわる組織として地域に定着しており、各地域の実情に応じた活動を実施しています。 ○平成 24 年度事業 有害環境チェック活動（7,2 月）魚つかみ大会、花いっぱい運動、飯盒炊飯・キャンプ、どんど焼き、子ども神輿、天神様、まんど作り、しめ縄作り、子ども球技大会、夏祭り・花火大会、その他に子ども映画会、クリスマス会、資源回収、朝の清掃等			
事業の課題及び方向性	【課題】地域全体で子どもを育てるという環境整備が求められています。 【方向性】子ども会・育成会は、地区の青少年健全育成の中心として大きな役割を担っています。しかし、地区によっては、過疎化、高齢化による組織的な問題も生じているため、委託料について見直しを進めます。			
自己評価	b			

伊那市よりよい教育環境推進連絡会



事務事業	No.34	成人式	H24年度決算額	1,084千円	
事業の目的	新成人を祝い、成人としての意識の高揚を図るため、式典を執り行います。				
事業内容	成人式の実施 ・公民館単位10地区で実施				
達成状況	平成21年度から伊那地域においても公民館単位での実施に変更しました。 【参考】( )内 H23				
	地区	実施日	対象者	出席者	出席率
	竜西	8月15日	144人 (162人)	107人 (107人)	74.3% (66.0%)
	竜東	8月15日	198人 (217人)	120人 (126人)	60.6% (58.1%)
	富県	8月15日	34人 (26人)	24人 (19人)	70.6% (73.1%)
	美篁	8月15日	73人 (82人)	55人 (67人)	75.3% (81.7%)
	手良	8月14日	23人 (19人)	15人 (15人)	65.2% (78.9%)
	東春近	8月15日	80人 (74人)	66人 (57人)	82.5% (77.0%)
	西箕輪	8月15日	96人 (74人)	59人 (50人)	61.5% (67.6%)
	西春近	8月15日	83人 (89人)	52人 (59人)	62.7% (66.3%)
	高遠町地区	1月2日	71人 (65人)	64人 (52人)	90.1% (80.0%)
	長谷地区	1月1日	19人 (19人)	19人 (16人)	100.0% (84.2%)
※伊那地区(竜西～西春近)計68.1% (H22:66.0、H23:67.3%)					
事業の課題及び方向性	【課題】開催方法、時期等を含めて、新成人にとってより良い成人式とは何かを検討し、実施する。 【方向性】公民館単位での実施は、4年が経過しました。今後、「伊那市成人式のあり方検討委員会」において、実施方法等について検討を行います。				
自己評価	c				



## 2-3: 文化の振興

文化芸術施設の整備及び充実を図り、文化芸術の鑑賞機会の充実や意識の高揚などを通じて、市民の文化芸術活動の振興を図るとともに、新しい文化の創造を推進します。

### (1)文化事業などの充実

事務事業	No.35-1	伊澤修二記念音楽祭	H24年度決算額	5,503千円
事業の目的	伊澤修二先生を顕彰するとともに、東京藝術大学との交流を通し、地域文化の振興を図ります。			
事業内容	<p>○伊澤修二記念音楽祭</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高遠町出身で東京藝術大学の前進である東京音楽学校の初代校長を勤めた伊澤修二先生を顕彰する音楽祭。昭和62年の東京藝術大学創立百周年を機に、旧高遠町で第1回が開催され、秋恒例の音楽祭となっている。</li> </ul> <p>○東京藝術大学学生による吹奏楽及び合唱指導</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市内中学校・高等学校の吹奏楽、合唱部員等を対象に、東京藝術大学学生を講師として行われる講習会</li> </ul>			
達成状況	東京藝術大学との音楽交流や日頃の練習の成果を発表する機会の創出が図られました。藝大関係者を含む音楽祭関係者同士がより交流を深めました。新たに、合唱講習会を開催しました。 【参考】入場者数 1,950人 (H22:2,200、H23: 2,150人)			
事業の課題及び方向性	<p>【課題】伊澤修二先生を縁とする東京藝術大学とのつながりを大切に、地域文化の振興にいかす必要があります。</p> <p>【方向性】東京藝術大学の優れた音楽に触れ、また市内中学生が指導を受けるよい機会になっています。伊那市固有の音楽祭として発展させるため、積極的なPRを図っていきます。</p>			
自己評価	a			

事務事業	No.35-2	い〜な音楽祭	H24年度決算額	250千円
事業の目的	コーラスグループを中心に合唱の発表機会を提供し、音楽を通じた相互交流を深めます。			
事業内容	各音楽団体の代表者により構成された実行委員会が運営し、一般や学校関係団体から参加を募り、一般市民の入場も呼びかけて県伊那文化会館で開催される市内合唱グループの発表会			
達成状況	実行委員自らの企画運営により、互いの参加団体が協力し合いながら、費用をかけずに充実した音楽祭の開催を図ることができました。 【参考】参加団体数 23団体 (H22:22、H23: 23団体)			
事業の課題及び方向性	<p>【課題】身近な発表の場として、参加しやすい運営に努める必要があります。</p> <p>【方向性】今後も息の長い音楽祭となるよう、実行委員会の組織の充実と事業内容の充実を図ります。</p> <p>25年度から参加団体が交代で事務局を務めることになりました。</p>			
自己評価	a			


事務事業	No.3 6	市民音楽祭	H24 年度決算額	2,326 千円
事業の目的	市民に良質な音楽と発表する場を提供するため、市民が企画し参加する音楽祭を開催します。			
事業内容	<p>①ふるさと芸能祭 ②手づくりの演奏会 ③生涯学習センターイベントの3事業を実施します。①と②は隔年で実施します。</p> <p>平成22年度事業 市民音楽祭「ストリングラフィ・アンサンブル公演」 手づくりの演奏会「スターバト・マテール演奏会」</p> <p>平成23年度事業 伊那節大会2011／ふるさと芸能祭 手づくりの演奏会「オペラ春香」（開催準備補助）</p> <p>平成24年度事業 手づくりの演奏会「オペラ春香」</p>			
達成状況	<p>内容などによって参加者にバラツキはありますが、良質な音楽を提供する音楽祭として定着してきています。24年度は、演奏、出演、スタッフ等市民の力を総結集した、手づくりのオペラを開催し、好評を得ました。</p> <p>【参考】入場者数1,325人（手づくりの演奏会のみ）（H22:1,128、H23:200人）</p>			
事業の課題及び方向性	<p>【課題】市民音楽祭の目的である「手作り」「良質な音楽の提供」を基本に、特色ある運営をする必要があります。</p> <p>【方向性】市民が企画し、参加する音楽祭、良質な音楽の提供を進めます。</p>			
自己評価	a			

事務事業	No.3 7	信州伊那井月俳句大会	H24 年度決算額	391 千円
事業の目的	伊那市を終焉の地とした漂泊の俳人井上井月を偲び、末永く顕彰するとともに、日本の伝統文化である俳句に親しみ、楽しんでもらうため、俳句大会を開催します。			
事業内容	<p>第21回信州伊那井月俳句大会の開催（平成24年9月1日）</p> <p>・実行委員会を中心に俳句大会を企画・開催し、事前に募集した小中学生及び一般からの投句の中から、入賞作品の発表・表彰を行ないます。</p>			
達成状況	<p>平成18年度から高遠を会場に開催し、歴史や伝統文化の相互理解及び市民の一体感醸成に寄与しています。</p> <p>【参考】投句数8,156句（一般1,224句、小中学生6,932句） （H22:6,901、H23:7,716句） 一般参加者数178人（H22:200、H23:198人）</p>			
事業の課題及び方向性	<p>【課題】俳人井上井月を顕彰するとともに、俳句に親しみ、俳句の普及を図る必要があります。大会も20回を超え、業務の一部を民間団体に移管する等により、活性化を図ることを検討する必要があります。</p> <p>【方向性】井上井月、俳句を通じて全国的にアピールできる事業であるため、開催方法や内容を検討しながら更に発展させる必要があります。俳句以外の面からも井月に親しむことのできる「まつり」への発展と、大会業務の民間の井月研究団体への移管を進めます。</p>			
自己評価	b			

事務事業	No.38	進徳館の日	H24年度決算額	265千円
事業の目的	進徳館教育の再発見をし、先人の遺訓を学び、その精神を現代に活かして歴史と文化のまち伊那市へ一層の発展を図ります。			
事業内容	○式典、基調講演、学習発表など(5月26日 会場:進徳館、高遠閣) ○剣道大会(5月26日 会場:高遠スポーツ公園文化体育館)			
達成状況	<p>実学重視の藩校「進徳館」の学びの心に触れ、藩校教育の伝統や精神を継承し、地域の生涯学習の振興を図る事業として地域に定着しています。</p> <p>○平成24年度 第18回進徳館の日</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・五聖像に礼拝</li> <li>・式典</li> <li>・基調講話 高遠小学校 小池眞利子校長「清らかでうつくしくやさしくたくましい高遠の子らに」</li> <li>・実践報告 高遠中学校 城倉淳教諭 「高遠の皆様に支えられて」</li> <li>・学習報告 高遠中学校吹奏楽部生徒 「吹奏楽」</li> <li>・基調講演「高遠そして東ティモール」 講師 北原巖男氏(前駐東ティモール民主共和国日本国特命全権大使)</li> </ul> <p>【参考】参加人数 200人 (H22: 200、H23: 200人)</p> <p>○平成24年度 第14回進徳館の日記念剣道大会 【参考】参加チーム数 31チーム (H22: 28、H23: 28チーム)</p>			
事業の課題及び方向性	<p>【課題】藩校「進徳館」の藩校教育の伝統や精神を継承し、その精神を現代に生かした事業展開を行なう必要があります。</p> <p>【方向性】進徳館教育の精神や優れた点を学び、現代社会に対応する方策を創造するとともに、広くPRすることによりこの事業の活用と面的な拡大を図ります。</p>			
自己評価	b			

事務事業	No.39	伊那能	H24年度決算額	475千円
事業の目的	日本の伝統芸能である「能」と「狂言」に親しむ機会を提供します。			
事業内容	「能」「狂言」公演の開催 ・平成2年に第1回を民間との協働により開催し、伊那市と県伊那文化会館が隔年で支援し、中学生の希望者を無料で招待しています。			
達成状況	<p>演目などにより入場者数の増減はありますが、日本の伝統芸能である「能」と「狂言」に親しむ良い機会となっています。</p> <p>○第21回伊那能(平成24年11月18日開催) 【参考】入場者数 800人 (H22:800、H23:900人)、 負担金 475千円 (H22:475、H23:200千円) 23年度までは補助金</p>			
事業の課題及び方向性	<p>【課題】日本の伝統芸能である「能」と「狂言」を鑑賞できる機会であり、継続のためには、分かりやすい内容で底辺の拡大を図る必要があります。</p> <p>【方向性】実施主体である民間との協働を基本に、分かりやすいものになるように鑑賞講座、ワークショップなどを取り入れながら、県伊那文化会館とも連携し継続開催します。</p>			
自己評価	b			

## (2)博物館などの整備・活用

事務事業	No.40	創造館	H24年度決算額	32,902千円								
事業の目的	市民の憩いの場及び生涯学習の場として、施設の管理・運営を行うとともに、「縄文から宇宙まで」をテーマに自然科学、宇宙、考古、歴史・民俗、芸術、環境などに関するユニークで独創的な事業を実施し、夢多き未来に向かって人類の進化の礎である「創造」を実践します。											
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自主事業 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 講演会、講座等の開催</li> </ul> </li> <li>○ 展示関係 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 常設展、企画展3回、逸品展2回 特別展2回</li> </ul> </li> <li>○ 貸館業務 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学習室、体験教室1、体験教室2、会議室、講堂</li> </ul> </li> <li>○ 資料の保管</li> </ul>		マスコットキャラクター 「つくルン」									
達成状況	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="2" style="text-align: center;">平成24年度 事業内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <b>【講演会】</b> 開館2周年記念フォーラム、第7回企画展特別講演会、第8回企画展特別トークショー、第9回企画展ギャラリートーク、逸品展（その5）記念講演会、JAXAタウンミーティング in 伊那 参加者 480人  <b>【講座等】</b> 宇宙の学校（5回）、地球の学校（5回）、夏の体験教室（2回）、縄文体験教室（4回）、尖石縄文考古館と野辺山宇宙電波観測所見学ツアー、天体観察会（2回）、小惑星探査プロジェクト4回）、春の体験教室（2回）、飯田線シミュレータ運転会 11講座 26回 延参加者 799人                 </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <b>【常設展示】</b> 神子柴遺跡出土品及び顔面付釣手形土器（国重要文化財）  <b>【企画展展示】</b>                      第7回企画展（伊那谷の生んだ彫刻家 中村喜平展）、第8回企画展（縄文人の春夏秋冬）、第9回企画展（飯田線マニアックス）                      逸品展その5（戦争と子どもたち）、逸品展その6（中川紀元～東洋の精神、西洋の筆）                      特別展 一夜の城発掘速報展、糸川英夫生誕100年記念展                      延観覧者 15,043人                 </td> </tr> <tr> <td colspan="2"> <b>【貸館】</b> 延利用者 11,612人                 </td> </tr> <tr> <td colspan="2"> <b>【参考】</b> H24 開館日数 299日、利用者数 26,655人                      H23 開館日数 299日、利用者数 18,959人                 </td> </tr> </tbody> </table>				平成24年度 事業内容		<b>【講演会】</b> 開館2周年記念フォーラム、第7回企画展特別講演会、第8回企画展特別トークショー、第9回企画展ギャラリートーク、逸品展（その5）記念講演会、JAXAタウンミーティング in 伊那 参加者 480人 <b>【講座等】</b> 宇宙の学校（5回）、地球の学校（5回）、夏の体験教室（2回）、縄文体験教室（4回）、尖石縄文考古館と野辺山宇宙電波観測所見学ツアー、天体観察会（2回）、小惑星探査プロジェクト4回）、春の体験教室（2回）、飯田線シミュレータ運転会 11講座 26回 延参加者 799人	<b>【常設展示】</b> 神子柴遺跡出土品及び顔面付釣手形土器（国重要文化財） <b>【企画展展示】</b> 第7回企画展（伊那谷の生んだ彫刻家 中村喜平展）、第8回企画展（縄文人の春夏秋冬）、第9回企画展（飯田線マニアックス） 逸品展その5（戦争と子どもたち）、逸品展その6（中川紀元～東洋の精神、西洋の筆） 特別展 一夜の城発掘速報展、糸川英夫生誕100年記念展 延観覧者 15,043人	<b>【貸館】</b> 延利用者 11,612人		<b>【参考】</b> H24 開館日数 299日、利用者数 26,655人 H23 開館日数 299日、利用者数 18,959人	
平成24年度 事業内容												
<b>【講演会】</b> 開館2周年記念フォーラム、第7回企画展特別講演会、第8回企画展特別トークショー、第9回企画展ギャラリートーク、逸品展（その5）記念講演会、JAXAタウンミーティング in 伊那 参加者 480人 <b>【講座等】</b> 宇宙の学校（5回）、地球の学校（5回）、夏の体験教室（2回）、縄文体験教室（4回）、尖石縄文考古館と野辺山宇宙電波観測所見学ツアー、天体観察会（2回）、小惑星探査プロジェクト4回）、春の体験教室（2回）、飯田線シミュレータ運転会 11講座 26回 延参加者 799人	<b>【常設展示】</b> 神子柴遺跡出土品及び顔面付釣手形土器（国重要文化財） <b>【企画展展示】</b> 第7回企画展（伊那谷の生んだ彫刻家 中村喜平展）、第8回企画展（縄文人の春夏秋冬）、第9回企画展（飯田線マニアックス） 逸品展その5（戦争と子どもたち）、逸品展その6（中川紀元～東洋の精神、西洋の筆） 特別展 一夜の城発掘速報展、糸川英夫生誕100年記念展 延観覧者 15,043人											
<b>【貸館】</b> 延利用者 11,612人												
<b>【参考】</b> H24 開館日数 299日、利用者数 26,655人 H23 開館日数 299日、利用者数 18,959人												
事業の課題及び方向性	<b>【課題】</b> 事業の実施に際して、生涯学習センター、市立図書館、公民館等の社会教育施設との棲み分けを図るとともに、連携・協働を推進する必要があります。 子どもが興味を持ち、参加したくなるプログラムの作成が必要です。 <b>【方向性】</b> 自然科学、考古、宇宙、歴史、教育等を中心にユニークで魅力ある事業の企画・運営を実践するとともに、学習と交流の拠点施設として、市民等が利用しやすい館の運営に努めます。											
自己評価	a											

事務事業	No.4 1	高遠町歴史博物館	H24 年度決算額	19,912 千円
事業の目的	市民の歴史文化に係る学習と教養の向上を図るため、地域の歴史と文化に関する資料を収集、保管、展示します。また、市の観光にも寄与するため広く情報を発信し、資料の活用を通じた文化交流を図ります。			
事業内容	○歴史博物館の運営及び管理			
	○常設展示			
	展示場所	展示内容		
	桜シアター	満開のタカトオコヒガンザクラの映像		
	山車展示室	貴船社山車や仲町山車など勇壮な山車と祭り		
	第1展示室	高遠城のジオラマや絵図などの高遠藩関係資料 高遠城主内藤家に伝わった家宝の兜や古文書		
第2展示室 (特別展示)	藩校進徳館と「高遠の学」 伊澤修二・多喜男、中村弥六など地域が生んだ偉人たち 高遠石工と石仏師守屋貞治			
絵島囲み屋敷	江戸時代大奥で6代将軍家宣の側室月光院に仕えた絵島が、将軍家の墓参の帰路、芝居見物をして帰城が遅れ、公務をおろそかにしたとして罪に問われ、高遠へ遠流となった当時の復元屋敷を展示			
○特別展の開催（下記）				
達成状況	○平成24年度特別展 魅力ある特別展を開催し、観光客の誘致にもつながっています。			
	テーマ	内容		
	第38回特別展 『信州高遠、伊那に残る日露戦争の記憶』(11月2日～5月13日)	NHK ドラマ放送を機に脚光を浴びた「日露戦争」について、地域に残る関係資料を取り上げ、改めてこの戦争を地域の視点から見つめ直し、平和の大切を考える展示としました。		
	第39回特別展 『地域の文化財を知ろう4』 貴船神社子供騎馬行列 (7月25日～8月9日)	伊那市指定無形民俗文化財。高遠藩主保科正之公が出羽へ移封の際、祭具を奉納して以来約400年の伝統をもつ騎馬行列の様子を、地元からお借りした関係資料や写真パネルで展示しました。		
	第40回特別展 『砲術家 阪本天山』 (10月24日～12月16日)	郷土が生んだ「砲術家阪本天山」の生涯と業績、阪本家の系譜や種子島への伝来以降の砲術の紹介を寄贈を受けた資料等もあわせて行いました。		
【参考】 ・特別展開催数3回（H22:2、H23:3回） ・年間入館者数22,536人（H22:21,440、H23:20,126人）				
事業の課題及び方向性	【課題】市民の歴史文化の学習と教養の向上のために、所蔵資料の活用、情報発信、他市との文化交流を図る必要があります。 【方向性】市の歴史と文化に関する資料を収集・保管し、常設展示に加え、魅力ある特別展を開催します。そのためにも、臨時職員のみでの現体制から、専門知識を備え、企画運営力がある職員の配置について検討をします。			
自己評価	b			

事務事業	No.4 2	信州高遠美術館	H24 年度決算額	29,736 千円
事業の目的	地域の方々が芸術文化に触れ、親しんでもらう機会を提供するため、美術館を運営します。			
事業内容	<p>○常設展 原田政雄画伯から寄贈された 668 点の作品を中心に、地元出身の中村不折、池上秀敏、江崎孝坪の作品や、平山郁夫、中川紀元などの作家の作品を展示</p> <p>○ギャラリー展 地元で活躍している作家やグループ、高校生、保育園児などの作品を展示</p> <p>○特別展</p> <p>○アートスクール 東京藝術大学の学生、地元芸術家などの指導と協力を得て、人物クロッキー、風景画、陶芸などの講座を通年開催</p> <p>○ミュージアムコンサート 弦楽器や歌など国内外で活躍中の演奏家や地域で活躍している皆さんによるコンサート</p>			
達成状況	伊那市唯一の美術館として、芸術鑑賞にとどまることなく、芸術講座などを積極的に企画し、市民の芸術文化の向上に寄与しています。			
	○平成 24 年度特別展			
	テ　　マ		内　　容	
	片岡鶴太郎展(4月1日～5月6日)		役者としてドラマ・映画・演劇に活躍している片岡鶴太郎氏は、唐木さち氏の写真集を見て野の花とともに生きる姿に感動し交流が始まったことをきっかけに片岡氏の作品と唐木氏の花を展示しました。	
	第 5 回信州伊那高遠の四季展(7月28日～9月2日)		全国公募第 5 回信州伊那高遠の四季展の受賞作品を展示しました	
	寄贈記念 鼻煙壺展(9月5日から10月1日)		沖正一郎氏より寄贈された鼻煙壺を展示しました。	
	第 35 回伊那市民美術展(10月4日～14日)		伊那市民美術会会員の作品を展示しました。	
ゲルト・クナッパ―陶芸展(10月18日～11月25日)		原田コレクションの中から、ドイツ出身のゲルト・クナッパ―氏の陶芸作品を展示しました。		
○ミュージアムコンサート 東京藝術大学院生コンサート、開館 20 周年ワサブローコンサート、フラメンコ公演会、邦楽演奏会、切り絵紙芝居、川島成道ヴァイオリンリサイタル				
【参考】入館者数 26,536 人 (H22:14,480、H23: 12,869 人) コンサート入場者 808 人 (H22:331、H23:280 人)				
事業の課題及び方向性	<p>【課 題】所蔵美術芸術品の活用をはかるとともに、美術や芸術に関連する講座・教室など魅力ある事業の企画運営を進める必要があります。</p> <p>【方向性】収集、保管されている優れた作品を活かした展示を企画し、市民をはじめ広く PR します。また、魅力ある講座・教室を企画、貸し館事業(コンサート・展覧会・結婚式等)も進めて、芸術文化に触れ、美術館に親しんでもらえる機会を提供します。</p>			
自己評価	a			



## 第3節 文化財の保存・継承・活用

### 3-1：文化財の保存・継承・活用

歴史資料や美術工芸品、建造物などの文化財は、保護するだけでなく、積極的に公開し、活用します。また、地域の民俗芸能を継承する活動を支援します。

#### (1)文化財の保存・継承・活用

事務事業	No.43	史跡高遠城跡	H24年度決算額	431千円
事業の目的	<p>昭和48年に藩校進徳館を含め国指定史跡となった。それ以前の昭和35年にはコヒガンザクラ樹林が県の天然記念物に指定されており、4月の観桜期には多くの観光客でにぎわう。</p> <p>合併後の新伊那市の歴史を共有するこの城跡の価値を損なうことなく次世代へ受け継ぎ、だれもが地域の歴史や文化を学ぶことができる環境づくりを進めるため、史跡の保存整備事業を行います。</p>			
事業内容	<p>○発掘調査などの実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・史跡高遠城跡保存管理計画等に基づき、復元時期を幕末に設定して復元整備を行います。また、城郭の状況を正しく理解し、開発等から埋蔵文化財を保護するとともに、史跡の復元のための調査を行い、記録報告書を作成します。</li> </ul>			
達成状況	<p>史跡高遠城跡保存管理計画、同整備基本計画、同整備実施計画に基づき整備を進めています。</p> <p>史跡高遠城跡整備委員会において、史跡整備計画の内容検討を行いました。</p> <p><b>【参考】</b> 発掘面積 0 m<sup>2</sup> (H22:0、H23:0 m<sup>2</sup>)          史跡面積(126,210.48 m<sup>2</sup>)に対する発掘済み累計面積の割合 1.17%          (H22:1.17、H23:1.17%)</p>			
事業の課題及び方向性	<p><b>【課題】</b> 整備実施計画の短期整備計画(H17～)に基づき、残存遺構などの調査を進める必要があります。</p> <p><b>【方向性】</b> 前期計画の調査結果に基づき、整備委員会の開催により後期整備実施計画の策定を進めます。</p>			
自己評価	b			



池上秀畝 画「旧高遠城之真景」

事務事業	No.4 4	民俗資料館	H24 年度決算額	3,974 千円
事業の目的	市内の民俗資料を継承するため、資料を収集・保管・整理・展示するとともに、体験できる施設として「なつかし館」と、歴史的建造物の「旧馬島家」、「旧池上家」を企画運営します。			
事業内容	○なつかし館、旧馬島家、旧池上家の企画運営			
	施設名	内容等		
	高遠なつかし館	住民から集めた昔懐かしい農具や生活用品などを展示。機織りや縄ない、蓄音機、足踏みミシンなどの体験ができる。高遠藩医を勤めた馬島家に関する資料も展示してある。		
	旧馬島家（県宝）	江戸時代に高遠藩の眼科医を勤めた馬島家の住宅。本棟造りの建物で、後世の改造が少なく、建造当初（天保7年（1836）頃）の形式を残しており、高遠藩当時の規模の大きな住宅の間取りを良く示している。		
旧池上家（市指定文化財）	豪壮な歴史の重さを感じる建物で、桁行9間梁行5間の町屋造り板葺きの妻入り住宅。特殊な町屋造りの家屋としては町内で最も古く、所蔵されている古文書も多い。池上家は、高遠城下で醤油や酢の自家醸造や販売を営みながら、代々町の重職を勤めた。			
	○特別企画展示の開催（年2～3回） ○公民館と共催で体験講座を開催（4～5回）			
達成状況	○企画展 「ひなまつり展」3/7～4/23、「五月人形展」4/25～6/6 ○体験講座（高遠町公民館と共催で実施） 古布を使った布草履づくり、つる細工づくり、手ぼうきづくり、しめ飾りづくり 計4回 【参考】年間入館者数 4,792 人（H22:4,799、H23:4,685 人）			
事業の課題及び方向性	【課題】駐車場が整備され、観桜期間中の入館者が増加しました。更に、昔を体験できる施設として広くPRし、利活用を図る必要があります。 【方向性】「観て・触って・やってみる」をモットーに、魅力ある企画展、体験講座などを実施し、地域の皆さんに親しんでもらえる、観桜期以外にも集客できる運営に努めます。			
自己評価	b			



旧馬島家（県宝）

事務事業	No.4 5	旧井澤家住宅	H24 年度決算額	1,800 千円
事業の目的	伊那街道伊那部宿の宿内で唯一の本棟造で最古の建物を保存するとともに、一般公開し活用を図ります。			
事業内容	○管理及び運営を地元「伊那部宿を考える会」に委託 ○一般公開 ・建物の概要 木造一部2階建 建築延面積 389.88 m <sup>2</sup>			
達成状況	○平成24年度特別企画 「伊那部宿周辺の石造物拓本展」、「会員所蔵品展」ほか 【参考】入館者数 1,468 人 (H23: 1,573 人)			
事業の課題及び方向性	【課題】地元の歴史的施設として有効に活用するとともに、周辺施設とも関連させながら、魅力ある運営を進める必要があります。 【方向性】地元の伊那部宿の貴重な歴史資料を生かし、多くの来館者を誘客できるよう企画について継続して見直しを進めます。			
自己評価	b			

事務事業	No.4 6	考古資料館	H24 年度決算額	341 千円
事業の目的	中央道発掘調査と市内の遺跡の発掘調査により出土した考古資料及び近世の絵馬（仲仙寺所有・市に寄託）を展示・公開することにより、歴史学習の場を提供します。			
事業内容	考古資料（中央道発掘調査関連及び市内発掘調査）と近世の絵馬を展示・公開			
達成状況	上伊那郡内の小中学生の見学や、専門家（研究者）を中心とした考古学・歴史学研究のために活用されていますが、利用者が減少しています。 【参考】年間利用者数 251 人 (H23:361 人)			
事業の課題及び方向性	【課題】出土品の一部は創造館へ移しましたが、中央道発掘調査遺物を中心として考古資料を収蔵しています。 【方向性】今後の施設のあり方については、地元活用について検討中です。			
自己評価	c			

事務事業	No.4 7	民俗文化の伝承	H24 年度決算額	6,350 千円
事業の目的	「山寺のやきもち踊りの習俗」や「中尾歌舞伎」、「高遠囃子」などの民俗文化を継承する活動を支援します。			
事業内容	中尾歌舞伎などの民俗文化の継承を図るため、国・県・市の補助・助成制度を活用した支援事業を行っています。			
達成状況	平成24年度事業 ○文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業（文化庁）を活用（4団体）			
事業の課題及び方向性	【課題】地域の民族文化を伝承しようとする地域の活動や保存会を支援する必要があります。 【方向性】有利な財源を確保しながら支援を進めます。			
自己評価	b			

## 第4節 スポーツ・レクリエーションの振興

### 4-1:豊かなスポーツライフの実現

いつでも、どこでも、だれもがスポーツに親しみ、心身の健康の保持増進を図るとともに、活力ある地域社会を形成するため、生涯スポーツを推進し、市民一人ひとりの「豊かなスポーツライフ」の実現をめざします。

#### (1)スポーツライフの実現

事務事業	No.48	市民体育祭	H24年度決算額	1,312千円
事業の目的	伊那市におけるスポーツの振興・推進のため、市民を対象とした当該大会を開催することにより、市民のスポーツの関心を喚起し、健康増進に寄与します。			
事業内容	○市民体育祭の開催 ( )内H23			
	種目	参加者数	種目	参加者数
	ゴルフ	215 (231)人	バドミントン	82 (74)人
	軟式野球(学童)	405 (405)人	バレーボール	210 (220)人
	〃 (一般)	388 (494)人	バスケットボール	346 (316)人
	山岳	14 (29)人	ソフトボール	430 (360)人
	太極拳・気功	52 (73)人	ソフトテニス	180 (雨天中止)人
	少林寺拳法	48 (50)人	卓球	63 (98)人
	ゲートボール	94 (120)人	柔道	183 (149)人
	硬式テニス	85 (128)人	サッカー	226 (160)人
	弓道	216 (202)人	マレットゴルフ	75 (76)人
	剣道	324 (305)人	ソフトバレー	171 (171)人
	陸上	68 (215)人	スケート	66 (57)人
	トリムバレー	212 (212)人	綱引	38 (35)人
	フットサル	241 (260)人	スキー	45 (45)人
	海洋	21 (-)人	パターゴルフ	37 (-)人
達成状況	<p>体育協会の各専門部が種目毎に主管となって実施し、市民に最も身近なスポーツ大会として開催しています。ホームページ等の広報を充実させ、参加者を増やす方策を講じながら、継続して開催することを目標に実施します。</p> <p>【参考】平成24年度実施状況 27種目 28部門開催 (7月1日から2月24日) 参加人数 4,535人 (H22:4,534、H23:4,485人)</p>			
事業の課題及び方向性	<p>【課題】多くの市民が参加できるよう、種目の検討や広報を充実させることにより参加者を増やす工夫が必要です。</p> <p>【方向性】引き続き広報等PRに努め、市民が参加しやすい大会の持ち方と初心者が参加できる種目についても検討し、開催します。</p>			
自己評価	b			

事務事業	No.49	総合型地域スポーツクラブ	H24 年度決算額	4,000 千円
事業の目的	スポーツの振興及び市民の健康増進・体力向上を図ります。			
事業内容	総合型地域スポーツクラブの活動支援 ・スポーツ教室の開催、各種イベント・大会の開催			
達成状況	<p>市民が手軽にスポーツを楽しむことができる複合型のスポーツクラブとして、各種イベントや教室の開催を通じ、会員の登録数が着実に増えてきています。</p> <p>通年開催の講座は80を超えており、スポーツ以外の分野の教室も開催しています。これは、スポーツに関心のない市民にとって、新たにスポーツに取り組むきっかけづくりとして期待がされており、先進的な取り組みと評価されています。</p> <p>平成 24 年度は市からの委託事業で、各スポーツ団体向けに指導者スキルアップ講座を開催しました。今後、伊那市の生涯スポーツ振興の中心を担う存在となることが期待されます。</p> <p>【参考】クラブ登録会員数 2,159 人 (H22:1,657、H23:1,585 人)</p>			
事業の課題及び方向性	<p>【課題】自主運営型・複合型スポーツクラブとして自立できるように支援し、地域ニーズにあった各種事業を開催する必要があります。</p> <p>【方向性】各種大会・研修会、教室の開催など、より多くの市民がスポーツに係われるようなクラブ運営を、総合型地域スポーツクラブが自立し推進できるよう行政も支援します。</p>			
自己評価	a			

事務事業	No.50	春の高校伊那駅伝	H24 年度決算額	9,500 千円
事業の目的	長野県内の陸上長距離競技のレベルアップ及び振興を図るとともに、観光や合宿等の集客や伊那市のPRを行います。			
事業内容	春の高校伊那駅伝の実施 ・実行委員会の運営 ・関連団体や関係機関及び参加校等との連絡調整全般			
達成状況	<p>全国から注目を集める大会に成長しており、男子の出場校が初めて100校を超えました。女子も合わせると過去最多の167チームが参加し、大会の充実が図られました。好天に恵まれ、応援運動やイベントなども盛り上がりを見せ、沿道からたくさんの市民に応援していただき、市民とともに作り上げる駅伝となっています。</p> <p>また、伊那市の魅力発信・合宿誘致についても、機会を得て合宿ガイドや観光パンフレットを送付し、取り組みを進めています。</p> <p>【参考】エントリー数1,668人 (H22:1,440⇒中止、H23:1,565人) 出場数167チーム (H22:163⇒中止、H23:153チーム)</p>			
事業の課題及び方向性	<p>【課題】陸上競技の普及・振興とともに、伊那市のPRにきわめて有効な事業であるため、観光PRにも寄与できる要素や、合宿誘致等も念頭におき、「駅伝のまち」としての環境整備を検討する必要があります。また、参加校が増えたことから、安全面への再点検を行う必要があります。</p> <p>【方向性】実行委員会を中心に、魅力ある安全な大会運営を進めます。</p>			
自己評価	a			

事務事業	No.51	ソフトボールの振興	H24 年度決算額	500 千円
事業の目的	ソフトボールのまち「伊那市」として、毎年継続的に全国規模の大会を開催することにより、市民にハイレベルな試合観戦の機会を提供しています。			
事業内容	○全国規模の大会の開催 ○長野県ソフトボール協会へ大会補助金交付			
達成状況	○平成 24 年度 ・第 58 回全日本総合男子ソフトボール選手権大会 32 チーム 参加者数 約 850 人 (平成 24 年 9 月 15 日(土)から 17 日(月)) ○小学生女子チーム「アルプスイーナちゃんクラブ」も、継続的な活動をしています。			
事業の課題及び方向性	【課題】全国大会の誘致と、競技人口の拡大を図る必要があります。 【方向性】引き続き全国大会誘致と式典の簡素化など経費の見直しを行なうとともに、ソフトボール教室の開催、指導者の育成など競技人口の拡大ができるよう、ソフトボール協会を支援します。			
自己評価	a			

事務事業	No.52	体育施設の整備	H24 年度決算額	146,589 千円
事業の目的	利用者の利便性向上を図るため、体育施設及び設備の整備を進めます。			
事業内容	体育施設等の管理及び整備			
達成状況	平成 24 年度事業 (1) ますみヶ丘平地林クロスカントリーコース整備 L=830m 総延長 2,961m (2) 伊那市宮野球場改修工事 H24～H25 継続費 (3) 高遠スポーツ公園体育施設改修工事 (4) 武道館耐震診断委託 (5) 体育施設修繕工事 8施設			
事業の課題及び方向性	【課題】老朽化した施設の整備を順次進める必要があります。 【方向性】平成 25 年度に、計画的な改築・更新及び統廃合・長寿命化対策を行うことを目的として、体育施設のあり方について庁内組織を立ち上げ検討し、持続可能な施設運営を目指します。			
自己評価	a			



春の高校伊那駅伝



市宮野球場改修工事竣工

## 伊那市教育委員会評価委員による意見

### 1 教育委員会の自己評価について

総合的、継続的な教育行政が行われる中で成果が出ており、課題や方向性が適切に示され、漸進的な改善がなされていることから「妥当」である。

### 2 伊那市の教育行政及び事務事業全般について

- (1) 学校教育、社会教育、文化、スポーツ等のそれぞれの分野で充実した取組がなされている。今後も継続性・安定性を確保して、一貫した方針の下に改善を重ねつつ教育行政に邁進していただきたい。
- (2) 今後、少子化への対応が大きな課題の一つとなる。少子化を前提とした幼保・小・中・高それぞれの取組みと相まって、少子化を念頭に置き、幼保から高までを見通した子どもの健全な成長発達のための施策が必要とされてくる。子供の数は、今後10数年分把握できるので、先を見通した早めの対応をお願いしたい。
- (3) 今後急速な高齢化への対応も大きな課題である。社会教育、生涯学習、文化、スポーツ等施策も地域住民の高齢化への配慮をしたものとしていただきたい。
- (4) 学校教育に関わる事業については、現場の学校長や教職員と十分な意思疎通を行い、学校の教職員の負担軽減を図る方向での事業展開をお願いしたい。
- (5) 社会の急速な変化変容に伴い、教育行政や学校教育への期待や負担が拡大している。そうした社会や家庭の変容を的確に把握し、教育行政の重要性を市内外に広く知らしめるPR活動や広報活動も必要ではないかと思われる。
- (6) 長いスパンで見た時の、子供たちの生活技術や運動能力の低下傾向、また、今後の急速な高齢化に伴い、体を鍛えたり、丈夫な体を維持することへの意識対応が必要になってくる。スポーツや体を動かすことを促す事業も継続してほしい。
- (7) これからも公民館活動に力を入れていただき、生涯学習と地域づくりや地域文化の充実に向けた取組みを推進してほしい。
- (8) 四季折々の自然の美しさ、食の豊かさ、環境に恵まれた伊那市の特色を生かして、歴史、文化、教育等、市民の知恵と共に心豊かな人間力を育む事業の展開を願う。

### 3 各事務事業について

No.	事務事業等	意見等
1	総合的な学習	<p>現代生活全般にわたり、高度の技術に支えられていることに伴い、子どもたちの身近な生活技術が衰えてきていることも否めない。例えば、掃除をする時の箒やモップの使い方などがぎこちなくなっている。子どもは環境の子である。そうした子どもたちの成長を促す適切な事業目的・内容等が実践されている。</p> <p>学校間の交流等を通して多くの体験をすることで、子どもの頃から、伊那市、そして自分の住んでいる地域の素晴らしさを知り、誇りを持って暮らせるようになると思う。是非交流の場を多くしてほしい。</p> <p>総合的な学習は、体験・交流など、実体験を通して得られる事も多く、大切な学習であり、形骸化しないように願いたい。また、地域の方や保護者との連携も大切にもらいたい。</p>



No.	事務事業等	意見等
2	学力向上	<p>現代の情報過多や昼夜の区別がつきにくい環境の中で、子どもたちが毎日の生活習慣を確立し、一定の時間宿題や課題に取り組める学習時間を確保するための事業は、これから益々必要になってくる。その意味で、本事業は方向性等明確になっている。この事業の重要性を地域の方々にPRしていただきたい。</p> <p>中学校だけでなく、小学校でも放課後学習支援に取り組んでみてはどうか。</p> <p>学力向上に大きな成果を上げている他県の取組みを積極的に取り入れても良いのではないかと。又、「自ら考え、発言する力」をつけるための学習にも力を入れて欲しい。</p> <p>「ノーテレビ・ノーゲーム」などの取組みは、年々輪が広がり定着しつつあるが、同時にメディア（インターネット、SNSなど）との関わり方を親子で学んでいくことが不可欠である。</p>
3	幼保小中の連携	<p>幼児から高校までの子どもの段階的な状況を知り、各段階での子どもの成長を促すことは重要である。特に、家庭環境やその子の特性などの情報交換を教職員が行うことが今後ますます必要になってくる。</p>
4	読書活動の推進	<p>読書環境が損なわれる一方の現代社会の中で、読書する環境を意図的に作り、読書による人間的な成長・総合的な学力の底上げは必須である。地味な事業だが継続発展を希望する。</p> <p>読書の習慣を子どもの頃から身につけることは大事であるので、学校図書蔵書のさらなる充実を願う。</p> <p>市図書館との連携も積極的に取組んでいただきたい。</p>
5	特別支援教育	<p>一人一人の実態を把握し適切な支援を願う。学校行事である臨海学校や修学旅行への同行ができるよう願う。</p> <p>教員が、正しい知識を得るための学習機会が必要ではないかと。</p>
5 6	特別支援教育 外国籍児童生徒 の支援	<p>必要欠くべからざる事業であり、今後規模の拡大増加が予想される。子ども個人を大切に育てる視点からも、地道な活動・運営を実践していただきたい。</p>
7	給食運営	<p>昨今、頓に注目され重要視されている食育の視点からも、本事業は重要性を増している。</p> <p>核家族化が進み、両親が忙しく働き食育や郷土食を伝えることが困難になっている家庭が増えてきているので、給食を通して学ぶ機会を作ってほしい。</p> <p>経費縮減など厳しい状況ではあるが、安全安心の一つとして食材産地の情報公開や放射線測定の実行を願う。</p> <p>給食施設は、現状が維持できるようお願いしたい。</p>



No.	事務事業等	意見等
8 9	教育環境の整備 促進	教育環境を整える上で最も重要な柱の一つである。児童生徒が安心して十分な教育を受けるために、また教職員の教育効果を高めるためにも、厳しい財政事情の中ではあるが一層充実させる方向での取組をお願いしたい。特に、現場の学校長や職員の意見等を十分に聞き取っての対応をお願いしたい。
10 11	高等学校への支援	今後、生徒数が減少する中で、上伊那地域にある高等学校全体、あるいは伊那市にある高等学校全体を見通した形での方向性を考えていくことが必要になってくる。
12 ～15	心の教育と支援	家庭状況や地域の様相が速いスピードで刻々と変化する状況の中で、学校等と密な連絡を取り、状況に応じた対応をお願いしたい。 引き続き、学校現場の負担にならない形での事業内容にしていきたいので、これまで通り、現場の学校長や教職員の意向や声を尊重し、連携する方向でお願いしたい。 日々子どもと接していないと、子どもの実態を正確に把握することは難しい。また、学校教職員との日々の相談連絡も大切である。支援員や相談員等については、できる限り学校に配属する形をとっていただくと学校現場は助かるのではないかと考える。
16	スクールカウンセラーの配置	スクールカウンセラーは、今後ますます必要性が増すと考える。多忙化している教職員への支援の意味でも、十分な配置をお願いしたい。また、学校からの要請に十分に答えていただけるようお願いしたい。
17 ～19	生涯学習・社会 教育の推進	市民大学は、本当の意味の生涯学習の場となるよう講座の内容を検討してほしい。
20 ～23	公民館活動の推進	伊那市の文化振興の拠点として、地域住民の集いの場、憩いの場として、今後も様々な企画・事業・施設設備の改善をお願いしたい。
27	生涯学習センター の充実	
24 ～26	図書館の充実	知力ある、世に有用な人材を育てるために、幼少時から若者に至るまで、本を読む、読書に励む機会を意図的に作る事が大切である。読書と共に市民の憩いの場ともなるような形になれば、と考える。
28 29	人権同和教育の 推進	人権教育の大切さは論を待たない。事業の継続発展を是非お願いしたい。
30 ～34	青少年の健全育成	社会環境の変化や少子化の中で、子どもを守り育てる事業も時宜に適した形で継続的に改良して行っていただきたい。 成人としての意識が高められるような、成人式のあり方を検討してほしい。

No.	事務事業等	意見等
35 ~47	文化事業などの 充実 博物館などの整備 ・活用 文化財の保存・ 継承・活用	<p>グローバル化したと言われる世相の中で、地域の文化的遺産を地元に住む人々が再認識することは、大切なことであり地域を隆盛にすることにも繋がる。年配者が子どもや若者に地域の伝統文化や文化的遺産を継承しやすい事業もお願いしたい。</p> <p>幼保・小・中の教育の中で、博物館・美術館・史跡等々を巡る遠足や社会見学などを、今まで以上に計画することも検討したらどうか。</p> <p>創造館・博物館・美術館・民俗資料館等で企画された催しなどの際の人的資源を、幼保・小・中の学校へ送って、その学校の子どもたちに刺激を与える機会を作ってみてはどうか。</p>
48 ~52	スポーツライフ の実現	<p>便利で体を動かさなくても済む現代社会において、老いも若きもスポーツや体を動かす事業は必須である。また、行政が健康や体力維持を促す場を意図的に設定する必要があると考える。様々な視点から工夫改善をしつつ、継続していただきたい。</p> <p>春の高校駅伝には、多くの市民が参加できるような取組みをお願いしたい。</p>

平成25年度

伊那市教育委員会評価委員

伊那弥生ヶ丘高等学校長

上伊那農業協同組合理事

中部PTA連合会副会長

大森清幸

網野澄子

鈴木ひとみ

